遊佐町告示第104号

地方自治法(昭和22年法律第67号)第101条第1項の規定により、第489回遊佐町議会定例会を平成25年6月17日遊佐町役場に招集する。

平成25年5月27日

遊佐町長 時田 博機

第489回遊佐町議会定例会会議録

議事日程(第1号)

平成25年6月17日(月曜日) 午前10時 開議(本会議)

- 日程第 1 会議録署名議員の指名について
- 日程第 2 会期の決定について
- 日程第 3 諸般の報告
 - 議長報告
 - 一般行政報告
 - 教育行政報告
- 日程第 4 報第 1号 議会活動等に関する調査特別委員会調査結果中間報告
 - ※新規請願事件の審議について
- 日程第 5 請願第3号 年金2.5%の削減中止を求める請願
- 日程第 6 ※一般質問

☆

本日の会議に付した事件

(議事日程第1号に同じ)

☆

出欠席議員氏名

応招議員 14名

出席議員 14名

1番	筒井義昭君	2番	高橋久一君
3番	高橋透君	4番	土門勝子君
5番	赤塚英一君	6番	阿部満吉君
7番	佐藤智則君	8番	高橋冠治君
9番	土門治明君	10番	斎藤弥志夫君
11番	堀満弥君	12番	那須良太君
13番	伊藤マツ子君	14番	三浦正良君

欠席議員 なし

☆

説明のため出席した者職氏名

町長	時田博機君	副町長	本宮茂樹君
総務課長	菅原聡君	企画課長	池田与四也君
産業課長	佐藤源市君	地域生活課長	川俣雄二君
健康福祉課長	本間康弘君	町民課長	渡会隆志君
会計管理者	富樫博樹君	教育委員長	渡邊宗谷君
教育長	那須栄一君	教育委員	東海林和夫君
農業委員会 会長代理	高橋正樹君	選挙管理委員 委員長	佐藤藤正喜君
代表監査委員	金野周悦君		

☆

出席した事務局職員

局長 小林栄一 次長 佐藤光弥 書記 佐藤利信

☆

本 会 議

議長(三浦正良君) おはようございます。ただいまより第489回遊佐町議会6月定例会を開会いたします。

(午前10時)

議長(三浦正良君) 本日の議員の出席状況は、全員出席しております。

なお、本定例会に説明員として町長初め各行政委員会の委員長、会長等の出席を求めましたところ、阿部農業委員会会長が公務のため高橋会長職務代理者が出席、その他全員出席しておりますので、報告いたします。

それでは、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、8番、高橋冠治議員、9番、土門治明議員を指名いたします。

日程第2、本定例会の会期についてを議題といたします。恒例により、議会運営委員会高橋透委員長より協議の結果について報告を求めます。

議会運営委員会高橋透委員長、登壇願います。

議会運営委員会委員長(高橋 透君) おはようございます。

第489回遊佐町議会定例会の運営について、去る6月7日に議会運営委員会を開催し、協議した結果、次のとおり意見決定しましたので、ご報告いたします。

初めに、本定例会の会期については、本日6月17日から6月20日までの4日間といたしました。

審議日程につきましては、お手元に配付のとおりでございますが、本日は議会の構成を行い、次に諸般の報告として、議長報告、一般行政報告、教育行政報告を行います。次に、議会活動等に関する調査特別委員会調査結果中間報告を行います。続いて、新規請願事件1件の審議を行います。その後一般質問に入り、4人を予定しております。

第2日目の6月18日は、前日に引き続き一般質問を行い、3人を予定しております。終了次第平成24年度一般会計補正予算の専決処分の承認についてほか専決処分2件、平成25年度一般会計補正予算1件、条例案件5件を一括上程し、補正予算については恒例により補正予算審査特別委員会を構成し、審査を付託いたします。

第3日目の6月19日は、終日各常任委員会を開催します。

第4日目の6月20日は、午前10時からおおむね午後3時まで補正予算審査特別委員会を行い、その後案文作成のため休憩に入ります。午後3時35分ころから本会議を開会、請願事件1件の審査結果報告及び採決、専決処分の承認について3件、条例案件5件の審議、採決、補正予算の審査結果報告及び採決、発議案件3件の審議、採決を行い、終了次第第489回定例会を閉会したいと思います。

また、本定例会より、一般質問において、試行ではありますが、一問一答方式を行います。活発な議論を期待します。

なお、本日議会終了後、議会運営委員会を開催しますので、よろしく願います。議員各位のご協力をお願いいたします。

議長(三浦正良君) お諮りいたします。

ただいま議会運営委員会委員長報告のとおり、本定例会の会期は本日6月17日より6月20日までの4日間といたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声多数)

議長(三浦正良君) ご異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は4日間と決定いたしました。

日程第3、諸般の報告に入ります。

初めに、議長の報告を行います。次に、一般行政報告について本宮副町長より報告願います。続いて、教育行政報告については那須教育長より報告願います。

議長報告

1. 議員派遣について

会議規則第121条の規定により、議員を派遣した。

○ 平成25年4月17日付

1. 庄内総合支庁長との研修懇談会

- ① 目的 庄内地方の開発振興上の諸問題について研修する。
- ② 派遣場所 酒田市
- ③ 期間 平成25年5月17日(金)
- ④ 参加議員 副議長

○ 平成25年4月12日付

2. 第38回町村議会議長会議長・副議長全国研修会

- ① 目的 議長、副議長として必要な知識を得、円滑な議会運営に資する。
- ② 派遣場所 東京都
- ③ 期間 平成25年5月28日(火)～29日(水)
- ④ 参加議員 副議長

○ 平成25年4月9日付

3. 第30回町村議会広報研修会

- ① 目的 議会広報発行技術の向上に資する。
- ② 派遣場所 山形市
- ③ 期間 平成25年5月22日(水)
- ④ 参加議員 広報調査特別委員会委員

2. 専決処分について

町長より下記事項について、地方自治法第180条第1項の規定による専決処分をした旨、報告があった。

記

平成25年3月29日付

- (1) 専決第2号 平成24年度吹浦統合簡易水道事業送水管布設工事請負契約の一部変更に係る専決処分について

平成25年4月3日付

- (2) 専決第6号 町有建物による事故に係る損害賠償額の決定及び示談についての専決処分につ

いて

3. 系統議長会について

☆ 庄内地方町村議会議長会臨時総会

1. 期 日 平成25年4月16日(火)午後3時
2. 場 所 庄 内 町
3. 案 件

(1) 認第1号 平成24年度庄内地方町村議会議長会会計決算の認定について

歳入合計	901,303円
歳出合計	718,428円
差引残額	182,875円

4. 協議事項

- (1) 知事を囲む市町村自治振興懇談会に対する要望事項について
 - ・ 日本海沿岸東北自動車道並びに新庄酒田道路の整備促進について
- (2) 山形県町村議会議長会臨時総会への要望事項について
 - ・ 羽越本線並びに陸羽西線の高速化等の促進について
 - ・ 一般県道「余目・松山線」庄内橋の架け替え促進について
- (3) 当面する諸問題について

☆ 庄内市町村議会議長会総会

1. 期 日 平成25年5月17日(金)午後3時30分
2. 場 所 酒 田 市
3. 案 件

- (1) 報第1号 平成24年度庄内市町村議会議長会事業について
- (2) 認第1号 平成24年度庄内市町村議会議長会会計決算の認定について

歳入合計	604,005円
歳出合計	321,293円
差引残額	282,712円

4. 協 議

1. 平成25年度庄内市町村議会議長会事業について

- ① 総会(第1回)
- ② 庄内総合支庁長との研修懇談会
- ③ 議員全員研修会
- ④ 議長・副議長・事務局長研修会
- ⑤ 議長会議

2. 平成25年度庄内市町村議会議長会予算について

予算総額	683,000円
------	----------

3. 平成25年度庄内市町村議会議長会負担金について

人口割 (80%) ・ 平均割 (20%)

本町負担額 33,000円

以上です。

続いて、一般行政報告について本宮副町長より報告お願いいたします。

副町長 (本宮茂樹君) おはようございます。それでは、一般行政報告を申し上げます。

平成25年6月17日。

1、平成24年度遊佐町一般会計予算の繰越明許費について。地方自治法施行令第146条第2項の規定に基づき、社会資本整備総合交付金による総合運動公園整備事業、国の1次補正予算による防災行政無線デジタル化事業外8事業に係る繰越明許費繰越計算書を次のとおり調整したので、報告します。別紙Iのとおり。別紙朗読省略。

2、平成24年度遊佐町公共下水道事業特別会計予算の繰越明許費について。地方自治法施行令第146条第2項の規定に基づき、国の1次補正予算による特定環境保全公共下水道事業に係る繰越明許費繰越計算書を次のとおり調整したので、報告します。別紙IIのとおり。別紙朗読省略。

3、平成25年度地域おこし協力隊の委嘱状交付について。4月1日、平成25年度地域おこし協力隊員として岡部裕三さん、鍋内愛美さん、坪沼雪人さんの3人に委嘱状の交付を行いました。

4、日本海沿岸東北自動車道について。5月16日、国土交通省は日沿道山形-秋田、山形-新潟両県境区間の事業費として各1億円の予算配分を発表し、正式に事業化が決定しました。また、酒田みなと-遊佐間の本年度の事業費は20億円で、設計調査、用地補償、道路及び橋梁工事が予定されております。

5、遊佐町水循環保全条例(仮称)検討会議の報告について。昨年7月26日に設置した遊佐町水循環保全条例(仮称)検討会議は、3月29日から4月30日まで実施した条例骨子案に対する意見募集の結果を踏まえ、6月3日、町長に対して水循環を保全するための条例骨子(案)の報告を行いました。

6、国際交流事業について。3月17日から25日に実施した姉妹都市ハンガリー・ソルノク市派遣事業に中学生3名、高校生6名を含む12名が参加いたしました。6月1日には、帰国報告会を開催し、ホームステイの思い出など各団員から貴重な体験の報告を受けております。

4月7日には、鳥海温泉遊楽里において、「チターとソプラノによるウィーンの調べコンサート」が開催され、150人の観衆を魅了しました。

4月22日から24日に姉妹都市ハンガリー・ソルノク市サライ・フェレンツ市長一行6名が交流30周年を記念し当町を訪れました。23日には、役場表敬訪問に続いて遊佐中学校、遊佐小学校を訪問し、給食交流などで子供たちと触れ合い、歓迎パーティーでも多くの参加者と交流を深め、さらなる友好を誓い合いました。

7、遊佐ブランド推進協議会事業について。3月17日、遊佐元気のちからづくり成果報告会を開催し、町内の15団体が平成24年度事業の発表を行いました。

5月11日から12日に行われた「よこすかカレーフェスティバル」に遊佐カレーが出店しました。会場には、全国のご当地カレー約90店が出店しました。遊佐カレーは、地元の食材にこだわった安心・安全なカレーであることをアピールし、2日間で340食を提供しました。

遊佐ノ市は、5月18日から36回の予定で豊島区での出店を開始しております。

8、カップリング・パーティーについて。3月20日、ホテルリッチ&ガーデン酒田において「カップリングパーティー」を開催しました。男性12名、女性13名が参加しました。

9、佐藤政養招魂之碑保存顕彰事業について。京都市東山区馬町にある佐藤政養招魂之碑の全容を確認するための調査が終了し、現在碑を囲む玉垣や石扉の補修、説明板設置等の周辺整備工事を行っており、6月末の完成を目指しております。

10、きらきら遊佐マイタウン事業について。4月15日から1カ月間公募を行った結果、集落遊園地内の滑り台改修、イベントの開催など5つの事業申請がありました。選定審査会による審査の結果、全ての事業が対象事業として選定されました。なお、助成申請額が予算枠に達していないことから、6月28日まで事業の追加募集を行っております。

11、稲川まちづくりセンター・吹浦地区防災センターの設計委託について。平成25年度事業の稲川まちづくりセンター並びに吹浦地区防災センターの実施設計について、設計委託事業者を選定するため、プロポーザル方式による技術提案を求め、書類審査による1次審査と公開ヒアリングによる2次審査を行い、設計委託候補者を選定し、町長に報告しております。

12、鳥海山春山開き及びブルーライン開通式について。4月26日、「鳥海ブルーラインの開通式」と「春山開き」を行いました。小野曾旧料金所前で開通式を行った後、秋田県にかほ市との合同開通式を大平山荘で行い、1年の山の安全と観光振興を祈願しました。

13、遊佐町・自立型スマートビレッジ構想の策定について。町内の再生可能エネルギーの活用を目指す「遊佐町・自立型スマートビレッジ構想」を策定しました。鳥海温泉の熱とガスの利用をモデル的に推進することを柱に、多様な再生可能エネルギーの効率的な活用を目指します。

14、ゆざ元町地域交流センターについて。平成24年度のゆざ元町地域交流センターの利用者は、延べ人数で5万3,000人弱となっており、前年度より1,500人ほどの増となりました。さらなる利用拡大を目指して、5月19日に今年度第1回目の軽トラ市が開催されました。

15、遊佐ビジネスネットワーク協議会について。5月23日、遊佐ビジネスネットワーク協議会通常総会が産直施設「八福神」で開催され、今年度の事業計画等の協議と情報交換を行いました。今年度も企業訪問、情報収集に努め、企業誘致を図ってまいります。

16、経営所得対策について。農業者戸別所得補償制度は、本年度から経営所得対策に変更になりました。本町では、4月25日、遊佐町農業振興協議会総会を開催し、変更に伴う規約の改正と遊佐町水田農業ビジョンの一部改正、推進活動計画及び産地資金の活用計画を決定しました。その決定を受け、平成25年度の経営所得対策への取り組みを進めております。

17、農地・水・保全管理支払交付金事業について。第2期対策の2年目となる平成25年度の取り組みについて、5月23日から28日まで地区ごとに説明会を開催し、事業の円滑な推進を図ってまいります。

18、豊かな海づくり大会に向けた推進体制について。6月13日、第36回全国豊かな海づくり大会第1回準備委員会が開催されました。平成28年度の開催に向け、県下全域での盛り上がりを図ってまいります。本町においては、7月6日に県事業による「豊かな海を育む森づくり事業」が開催される予定となっております。

19、メジカ増殖事業について。4月6日、鶴岡市のイル・ケッチアーノにおいて、奥田シェフによるメ

メジカ料理を楽しむ会が開催され、平成24年度に設立されたメジカ地域振興協議会の構成員を初め、水産業関係者、行政機関等24名が参加しました。メジカ増殖事業にかかわる方々の交流会により、これからの増殖事業について相互の連携を強めたところです。

20、地域医療充実支援事業の取り組みについて。町内医療機関からの地域医療安定化交付金事業への申請は、5月30日現在2名であり、交付決定しております。また、看護師等奨学金貸付事業については、申請者がありませんでした。6月3日より2次募集を行っております。

21、子育て世帯移住奨励金について。今年度から、遊佐町に定住する目的で移住した世帯に対し、子育て世帯移住奨励金交付事業を実施していますが、5月末まで7件の申請があり、子供の数で13名の交付を決定しております。

22、社会資本整備総合交付金について。今年度は、遊佐-稲川-丸子線防雪柵設置、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、西浜橋の設計、消防自動車購入を予定しております。

23、平成25年度住宅支援事業について。今年度においても持家住宅建設支援金、定住住宅建設支援金、定住住宅取得支援金、定住賃貸住宅建設支援金、住宅リフォーム資金特別融資の各事業を実施しております。

6月5日現在の受け付け状況は、持家住宅建設支援金65件、定住住宅建設支援金17件、住宅リフォーム資金特別融資6件となっております。

24、国道7号の視距改良について。国土交通省事業である国道7号女鹿漁港前の急カーブにおける視距改良の本年度事業費は6億900万円で、今年度より改良工事に着手します。

25、西遊佐風力発電事業の環境影響評価方法書の縦覧について。4月1日から4月30日までの1カ月間、環境に及ぼす影響を事業者みずからが調査する方法書の縦覧を実施しました。同時に、海岸線沿いの地域集落説明会を実施し、意見聴取を行っております。

今後県の環境影響評価審査会等の手続を経て、法アセスに準ずる項目での調査を実施する予定です。

26、再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業について。4月26日付、平成25年度における山形県市町村防災拠点再生可能エネルギー導入促進事業費補助金の交付決定を受けました。今年度は、防災センターに太陽光発電設備(出力15キロワット)の導入を予定しております。

27、小中学校エコチャレンジ事業について。平成22年度から児童や生徒たちがみずから省エネ目標を設定し、活動に取り組むフィフティフィティ事業を行って3カ年の節目を迎えました。

平成25年度から数値目標の達成だけでなく、省エネ活動の取り組みに対するの評価も組み込んだ新たな事業名称に改め、継続した環境学習への支援を行います。

28、夏期に向けた省エネ対策の取り組みについて。5月2日、エコプラ推進会議を開催し、庁舎内の各課及び公共施設における省エネ重点目標を設定しました。また、5月27日からのクールビズの前倒しや公共施設における「緑のカーテン」の植栽も実施しております。

6月5日キックオフの「山形方式省エネ県民運動」も実施中であり、町民への呼びかけを行います。

29、遊佐町環境基本計画の改定について。3月に遊佐町環境基本計画改定版を策定しました。計画推進の実効性を高めるため、町民・事業者・町との協働による情報の共有や協議の場を設定し、進捗状況などを毎年点検し、結果を公表しながら進行管理体制を充実してまいります。

30、「遊佐町地域新エネルギービジョン」の改定について。今年度関係機関と連携して、地域資源を活用した再生可能エネルギー導入の可能性や事業化に向けた調査研究を行いながら、具体的なエネルギーの取り組み目標を定めたエネルギー基本計画の策定に着手します。

今後プロジェクトの検討を進めながら、エネルギーに関する町民・事業者向けの学習機会を設定していきます。

31、下水道事業について。特定環境保全公共下水道工事において、今年度は十里塚集落と野沢集落の整備を行い、完成部分の年度内の供用開始を予定しています。5月末現在の下水道の接続状況は、公共下水道区域では供用開始戸数3,679戸のうち2,492戸で、接続率67.74%となっております。

農業集落排水区域では、供用開始戸数537戸のうち412戸で、接続率76.72%となっております。

32、上水道事業について。下水道工事にあわせ、十里塚集落において老朽管の更新を予定しております。また、老朽化した大楯浄水場電気計装施設、送水ポンプ更新工事や老朽管及び小口径配水管の解消を図るための管網整備事業を実施します。

吹浦簡易水道については、第1水源の浄水処理施設（紫外線照射等）の工事を実施します。

排泥作業については、定例排泥作業を4月から12月までの第2・第4月曜日に実施します。強制排泥作業は、5月から11月までの間、定例排泥作業の結果を踏まえて、吹浦簡易水道を含め8回ぐらい予定しております。

以上です。

議長（三浦正良君） 続いて、教育行政報告について那須教育長より報告願います。

教育長（那須栄一君） 教育行政報告。平成25年6月17日。

1、教育委員会の開催状況について。3月9日、3月25日、4月1日、5月14日、6月6日に遊佐町教育委員会会議を開催し、遊佐町教育委員会所属職員の人事異動発令、遊佐町立小学校適正整備による統合新校校名の決定、遊佐町教育行政の重点目標の承認、要保護・準要保護児童生徒の認定、遊佐町立図書館長の任命について、遊佐町社会教育委員の委嘱についてなどの議案が可決されました。

2、学校経営について。3月16日に遊佐中学校の卒業式が行われ、140名が義務教育の課程を修了し、学びやを巣立ちました。また、3月18日には、各小学校で卒業式が行われました。

また、今年度に入り、4月7日に中学校、4月8日に各小学校の入学式がとり行われ、101名の児童と116名の生徒が新たな環境で順調なスタートを切りました。

5月から6月上旬にかけて、年度初め経営訪問を実施し、各校の学校経営について指導助言を行いました。

3、学校教育施設整備について。吹浦小学校校地等整備工事は、6月3日に着工し、9月6日に完成予定となっております。

4、小学校の適正整備について。去る5月30日に、稲川小学校・西遊佐小学校統合新校開校準備委員会の設立総会を開催し、規約の一部改正、副会長の選出を行いました。その後、各部会に分かれての調査・検討が行われており、平成26年度の新校開校に向けての準備が進められております。

5、子どもの読書活動優秀実践校の受賞について。4月23日、遊佐小学校の読書活動へのすぐれた取り組みが評価され、文部科学大臣より「平成25年度子どもの読書活動優秀実践校」の表彰を受けました。

6、地域環境保全功労者表彰の受賞について。6月12日、西遊佐小学校の地域におけるすぐれた環境学習の取り組みが認められ、環境大臣より「平成25年度地域環境保全功労者表彰」の表彰を受けました。

7、「遊佐町史 下巻」編さん事業について。第2回遊佐町史編さん・編集合同委員会を3月11日に開催し、目次案・執筆分担を確定させ、発刊目標を平成27年中としました。

8、無形民俗文化財の記録保存事業について。少子高齢化や生活様式の変化等により伝承の危機にある樽川、中山(平成25年4月4日)、平津(同6日)のやさら行事のビデオ撮影等記録保存に取り組みました。また、町内に伝わる民俗芸能・伝承行事を総覧するカラーパンフレットを作成し、多方面からの反響がありました。

9、奥の細道鳥海ツアーマーチについて。平成25年度実行委員会総会を5月23日に開催し、平成24年度決算、平成25年度事業計画、予算案が承認されております。今年度は、第21回目の大会として新たな思いで盛り上げていきたいと考えております。

10、少年町長・少年議会について。5月22日から5月29日まで、遊佐町在住・在学の生徒から第11期少年町長・少年議員の立候補者募集を行い、少年町長に女性1名、少年議員に男性4名、女性5名の計9名から立候補がありました。定数内あるいは定数に満たないため選挙は行わず、今後当選証書付与式を行い、12月末まで若者の意見を町政に届けるべく活動していきます。

11、遊佐町総合運動公園整備事業。開発行為の認可の後、2月中に用地取得を終了し、3月13日に工事入札会が行われ、阿部建設・斎藤工業特定建設共同企業体が落札しました。4月12日に起工式を行い、現在工事は順調に進捗しています。

以上です。

議長(三浦正良君) 以上で諸般の報告を終了いたします。

次に、日程第4、報第1号 議会活動等に関する調査特別委員会調査結果中間報告についてを議題といたします。

議会活動等に関する調査特別委員会から中間報告の申し出がありましたので、許可いたします。

議会活動等に関する調査特別委員会佐藤智則委員長、登壇願います。

議会活動等に関する調査特別委員会委員長(佐藤智則君) おはようございます。

報第1号

平成25年6月17日

遊 佐 町 議 会

議 長 三 浦 正 良 殿

議会活動等に関する調査特別委員会

委員長 佐 藤 智 則

議会活動等に関する調査特別委員会の調査結果中間報告

本特別委員会に付託された議会活動等に関する調査について、調査の結果を別紙のとおり、会議規則第47条の規定により報告します。

(別紙)

1. 調査事件

- (1) 議会基本条例の制定について
- (2) 議会議員政治倫理条例について
- (3) 議会報告会について
- (4) 議員定数について
- (5) 議員報酬について
- (6) 議員研修について
- (7) 議会のホームページの更新について
- (8) 町行事への参加要請の取扱いについて

2. 調査方法

- (1) 会議の進め方

調査事件について、その緊急度により分割して調査を行い、6月までに終了する必要がある件については中間報告を行うこととした。

3. 調査の結果及び意見

- (1) 議会基本条例の制定について

①議会に課せられた責務を遂行するため、政策決定の過程において民意を反映させる開かれた議会を目指し、この条例を制定することとした。

- (2) 議会議員政治倫理条例について
- (3) 議会報告会について
- (4) 議員定数について
- (5) 議員報酬について
- (6) 議員研修について
- (7) 議会のホームページの更新について
- (8) 町行事への参加要請の取扱いについて

①(2) から (8) までの調査事項等は調査未了のため、調査期間を延長し議会の運営、活動の活性化を図るための方策やあり方などについて調査を行い報告する。

4. 委員会開催日

「特別委員会」

- 第1回委員会 平成23年10月17日 (全員出席)
- 第2回委員会 平成23年10月26日 (全員出席)
- 第3回委員会 平成23年11月1日 (全員出席)
- 第4回委員会 平成24年1月16日 (全員出席)

- 第5回委員会 平成24年2月16日 (全員出席) 三川町
- 第6回委員会 平成24年4月20日 (全員出席)
- 第7回委員会 平成24年5月7日 (全員出席) 県町村議会
- 第8回委員会 平成24年7月24日 (全員出席) 新潟県立大学講師
- 第9回委員会 平成24年7月27日 (全員出席)
- 第10回委員会 平成24年8月2日 (全員出席)
- 第11回委員会 平成24年8月9日 (全員出席)
- 第12回委員会 平成24年10月10日 (全員出席)
- 第13回委員会 平成24年10月16日 (全員出席) 新潟県立大学講師
- 第14回委員会 平成24年12月10日 (全員出席)
- 第15回委員会 平成25年1月7日 (全員出席)
- 第16回委員会 平成25年1月22日 (全員出席) 行政との懇談
- 第17回委員会 平成25年3月13日 (全員出席)
- 第18回委員会 平成25年3月27日 (全員出席) 新潟県立大学講師
- 第19回委員会 平成25年4月12日 (全員出席)
- 第20回委員会 平成25年4月30日 (全員出席)
- 第21回委員会 平成25年5月21日 (全員出席) 行政との懇談
- 第22回委員会 平成25年5月21日 (全員出席)

「小委員会」

- 第1回小委員会 平成23年9月28日 (3人出席)
- 第2回小委員会 平成23年10月6日 (4人出席)
- 第3回小委員会 平成23年10月21日 (4人出席)
- 第4回小委員会 平成23年10月26日 (4人出席)
- 第5回小委員会 平成23年12月16日 (4人出席)
- 第6回小委員会 平成23年12月21日 (4人出席)
- 第7回小委員会 平成23年12月27日 (4人出席)
- 第8回小委員会 平成24年1月10日 (4人出席)
- 第9回小委員会 平成24年1月23日 (4人出席)
- 第10回小委員会 平成24年4月5日 (4人出席)
- 第11回小委員会 平成24年4月26日 (4人出席)
- 第12回小委員会 平成24年6月4日 (4人出席)
- 第13回小委員会 平成24年6月26日 (4人出席)
- 第14回小委員会 平成24年7月13日 (4人出席)
- 第15回小委員会 平成24年7月17日 (4人出席)
- 第16回小委員会 平成24年8月2日 (4人出席)

第17回小委員会 平成24年10月4日 (4人出席)
第18回小委員会 平成24年10月25日 (4人出席)
第19回小委員会 平成24年11月26日 (4人出席)
第20回小委員会 平成24年12月20日 (4人出席)
第21回小委員会 平成24年12月25日 (4人出席)
第22回小委員会 平成25年2月6日 (4人出席)
第23回小委員会 平成25年2月19日 (4人出席)
第24回小委員会 平成25年4月5日 (4人出席)
第25回小委員会 平成25年4月22日 (4人出席)
第26回小委員会 平成25年5月13日 (4人出席)

以上でございます。

議長(三浦正良君) 新規請願事件の審議に入ります。

日程第5、請願第3号 年金2.5%の削減中止を求める請願を議題といたします。

事務局長をして朗読いたさせます。

小林議会議務局長。

局長(小林栄一君) 上記請願を朗読。

議長(三浦正良君) 紹介議員の伊藤マツ子議員より補足説明を求めます。

13番、伊藤マツ子議員、登壇願います。

13番(伊藤マツ子君) おはようございます。年金2.5%の削減中止を求める請願の補足説明を行います。

請願要旨にもあるように、年金の2.5%引き下げは地域経済に大きな影響を与えます。昨年4月末の遊佐町の高齢者への厚生年金と国民年金の年金給付額は、およそ65億円となっています。それが3年後には今給付を受けている人の分だけで63億3,700万円になります。新たに給付を受ける人の分も考慮に入れば、2億円ぐらいの減額になるのではないのでしょうか。減額の理由は特例水準と言っていますが、高齢者の生活と経済への悪影響を避けるためにと据え置かれた2000年から2002年のころに比べ、高齢者の生活がよくなっているのでしょうか。過去10年余りを振り返っても、年金生活者には負担増だけがのしかかっています。2000年の国民年金の基礎年金基準額は80万4,200円、2010年には78万8,900円、2012年には78万6,500円、国民年金のみの平均受給額は月4万9,000円ぐらいです。増税にあわせ、相次ぐ介護保険料など、あるいは医療費の窓口負担増などでさらに生活が悪化しているというのが現状です。年金削減では、若い世代の将来の受給額を減らすだけでなく、低年金の親を支える子の世代にも大きな影響を与えますし、年金削減は年金不信をより一層あおることになります。年金改悪、2.5%の引き下げを突破口に、現役労働者の減少率と平均余命の伸び率をもとに算出し、調整をとるマクロ経済スライドの実施で、毎年0.9%の引き下げも計画されています。

高齢者の暮らしと地域経済を守るためにも、2.5%の削減中止を求める請願の願意はどなたも妥当とご理解いただけるものだと確信をしております。議員各位の賛同にご理解を申し上げ、補足説明といたします。

議長(三浦正良君) お諮りいたします。

本件につきましては、会議規則第92条第1項の規定に基づき、総務厚生常任委員会に審査を付託するこ

とにいたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声多数)

議長(三浦正良君) ご異議なしと認めます。

よって、請願第3号は総務厚生常任委員会に審査を付託することに決しました。

次に、日程第6、一般質問に入ります。

今般本町議会では、議会改革の一環として、新たな質問方式である一問一答方式を試行することといたしました。これにより、従来の一括質問方式との選択制により一般質問を実施しておりますが、念のために発言は議長の指名を受けてから行うようにしてください。

なお、一般質問における持ち時間は、従来どおり質問、答弁を含め60分以内であります。質問、答弁とも簡明にお願いいたします。

それでは、あらかじめ質問の通告がありましたので、通告順に発言を許可いたします。

13番、伊藤マツ子議員。

13番(伊藤マツ子君) それでは、前もって通告いたしましたことについて一般質問を行います。

最初に、福祉行政についてであります。福祉行政の改善について一つの提案として伺います。4月に、テレビで右半身麻痺の方が調理など全てを自分でやっているという放送を見ました。その中で、麻痺の人が自立できるよう援助したデイサービスセンター、みずうみ村のことも取り上げられていましたが、私は福祉はこうあるべきだと思いました。みずうみ村の利用者への対応は次のようなものでした。マイナス思考からプラス思考の介護、その人の持っている可能性を最大限生かす、引き出す、自分でできることは極力自分でやってもらう、可能性への挑戦を全てリハビリと位置づけて努力をしてもらう、できることは手伝わない、できそうなことは挑戦し、どうすればうまくできるか考えてもらう、できないことはどうすればできるようになるか考え、工夫してもらう。そうすることで生活する能力を身につけてもらう、自分のやりたいことを自分でやるからおもしろい、どうしてもできない部分に限って介助をする、リハビリも身体機能の回復より生活の回復を目指す、身体に不自由があっても、不便さはあっても生活できる能力を身につけ、高めることで体の健康よりまず心の健康を取り戻す、努力しても回復しないと苦悩と葛藤の日々を送ることになるが、障害があってもあるがままをよしとできる心境、あるがままの自分自身を認める心境になることで、生活の回復からさらに進んで人生の回復につながっていくと伺います。例えばデイサービスも人生の現役養成講座と呼んで、何をやるかは200のメニューから1日50のメニューを表示、自分のやりたいことを自己選択、自己決定してもらう。自己決定することそのものが脳のリハビリになるそうです。能力は、使わないとどんどん退化していき、能力を奪ってしまうことになり、できる能力を奪わないやり方、こうした取り組みの結果、8割の人の介護度が改善したそうです。私は、町の福祉行政にぜひ生かしてほしいと思いますが、このような方法をやっているあるいはやろうとしている施設は町内にあるでしょうか、伺います。

また、今申し上げたような福祉のあり方について町長はどう思われるかお尋ねいたします。

風疹への対応について質問します。ニュースなどでも大きく取り上げられているように、風疹が過去最高のペースでふえています。国立感染症研究所の発表によれば、5月29日現在の患者数は昨年1年間の3.5倍を超える8,507人に達したとなっております。また、昨年10月からの半年間で、妊婦が風疹にかかり、

胎児に先天性風疹症候群が発症した赤ちゃんが10人になったといえます。しかも、同研究所の多屋馨子室長は、流行はおさまる様子は見られない、妊婦と赤ちゃんを守るためにも予防接種を受けていなかったり、不明な人は早目に受けてほしいと訴えています。厚生労働省も、免疫力を持たない人が多い20代から40代を中心に接種を検討してほしいと呼びかけています。さらに、これまでは大都市圏での発症が多かったが、地方圏はこれから本番と指摘をする専門家もおります。遊佐町では、まだ患者は確認をされていないようですが、油断はできないと思います。そこで、町の対応について質問し、予防接種に対する助成を求めつもりでしたが、質問準備中の6月5日に全員協議会で助成することが示されました。

そこで、少し角度を変えて質問します。1つ目は、せっかく実施する助成ですので、この支援を一人でも多くの人を受けられるための手だてについてお尋ねします。対象となる世代の多くは現役世代であり、働いている人が大半だと思います。平日の日中に医療機関に出かけて接種を受けるというのは難しい人もいないのではないかと思います。対象者の人数が示されたことは、誰が対象になるか一定わかることだと思いますが、一人一人に個別に案内するとともに、協力をお願いする医療機関にはできれば診療時間の延長などを考えていただくとか、会社や公共施設など一定の時間を出張して実施するなど、対象となる世代が実際に接種できる条件を整備することも町の責任だと思いますが、所見を伺います。

また、ことし妊娠中とか、何らかの事情で接種できない方も生ずると思います。来年度末まで最低でも2カ年事業として実施をしてほしいと思いますが、あわせて所見を伺います。

2つ目は、風疹の恐ろしさを知らせ、接種を促すことについて伺います。個別の案内でも必要と考えますが、同時に広報などで風疹の恐ろしさ、特に妊娠中にかかる胎児に症状がこのように出るなどの後遺症が残る危険があることを知らせ、妊婦への感染を防ぐためには夫を初め家族も接種が必要なことを知らせ、予防接種の必要性を丁寧に説明し、接種を促すことも必要と考えますが、所見を伺います。

3つ目に、県や国に費用負担を要請することについて伺います。本来は全額国の負担で実施するべきだと考えます。アメリカでは、10年ごとに政府がワクチン計画をつくり、種類ごとの接種目標をつくり、公費で実施しているとのこと。自治体には一人一人の接種記録がデータベース化されており、決められた接種を受けないと幼稚園や学校にも入れないそうです。そうした取り組みの結果、アメリカにおける風疹患者は年間わずか10人だそうです。2004年には排除宣言を行っています。アメリカの対策組織の責任者は、予防接種は個人だけでなく社会を感染症から守ると言っています。ところが、日本では平成6年の法改正で、それまでの義務から勧奨に、学校での集団接種から医療機関での個別接種に転換しています。そのことが大流行の要因になっているとも指摘をされています。アメリカのように国の制度として実施すべきものだと思います。国に対して、基本的に国の負担で接種できるようにぜひ要請してほしいと思います。また、県が助成することで多くの市町村が助成をできる道が開けると思います。県にもぜひ要請してほしいと思いますが、あわせて所見を伺いまして、壇上からの質問を終わります。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） おはようございます。489回遊佐町議会定例会一般質問、伊藤マツ子議員に答弁をさせていただきます。

今伊藤議員からは、千葉県浦安市にあるデイサービスセンター、夢のみずうみ村の介護の実態を紹介していただいたの質問でありました。本年度4月現在、我が町の高齢化率は33.6%となっております。この

うち介護認定を受けている方は1,065名で20.6%であり、年々重度化しているというのが現状であります。今後もこの増加傾向が続いていくと思われれます。そして、町の介護にかかる費用もそれが町としてはだんだん、だんだんふえていくということを想定をしているところであります。町の介護度の軽度化を図るということは喫緊の課題でもありますし、また要介護にならないような予防介護ということも非常に重要な課題と思っております。介護を要する状態となっても、できる限り自宅で自立した日常生活を営むことができるように支援をしてまいりたいと考えております。伊藤議員ご紹介の夢のみずうみ村で行っている介護サービスにより、利用者の8割の方が介護度が改善されたということは大変驚くべきことであると思っております。本町の福祉施設で行われている介護サービスから考えますと、大変興味のある事例であると考えております。また、人生の現役養成道場としての位置づけと高齢者のためのカルチャーセンターとまで言われているようですが、議員が提示されたようにその介護の仕方はこれまでのものと異なり、施設主導から個人の自己選択によるサービス受給という一歩進んだものになっていると考えられます。このことが本人のやる気を起こさせ、1人でできる日常生活につながっているのではないかと考えております。このような介護が実施できれば、サービスを受けている方はもちろんのこと、サービスを提供する施設でもこの上ないサービスと言えるのではないかと考えられます。本町での介護サービスの提供は、各施設の考えのもと個人個人に合ったメニューを提供しながら行っている状況であります。今後は、自己の選択が可能となるサービスの提供のあり方についても、それぞれの施設の事情もおありでしょうから、それぞれの施設で取り組まれるよう期待をしたいと考えております。

また、町が提供している福祉サービスにつきましては、これまでのサービスの方法を検証して、個人の意思をより尊重しながら、個人に合ったメニューの選択ができるよう検討できればすばらしいと考えております。

6月の13日木曜日に、実は山形県では健康長寿安心やまがた推進本部設立会議が山形市内で開催されました。まさに山形県が主導して、超高齢化社会を迎えている中で、県内全ての市町村においてもこのような組織をつくって、いわゆる健康で長寿でいられる健康長寿のための介護予防に大いに力を入れていかなければならないと新たな運動を取り組む制度を整えたところであります。また、我が町では、平成27年度以降の第6期の介護保険事業計画策定作業が始まるところであります。その中では、介護サービスはもちろん、老人福祉サービスについて検証していくこととなります。計画策定委員会でも鋭意協議を行いながら、何が住民に合ったサービスになるのか、どのような方法が一番よいサービスなのか検討していきたいと考えております。自立を目指す福祉のあり方については、私自身がみずからの母を若くして脳疾患により病に倒れて長くりハビリを行った体験がありますので、これらを大いに参考にしなければと考えております。

2番目の質問に入ります。風疹の予防接種についてでありました。初めに、風疹の流行状況を申し上げますと、風疹は五、六年ごとに大きな流行を繰り返しておりますが、ことしは平成20年以来の大流行となっております。風疹の流行は2年から3年連続して起こることが多いと言われており、来年の流行の可能性も心配されているところであります。現在の風疹の発生状況は、東京都や神奈川県、大阪府などで多く、年代別では20代から40代で、特に男性の発生が多くなっております。妊娠、出産に関係する年代も含まれていることから、先天性風疹症候群、すなわち妊娠初期の女性が風疹に罹患し、胎児が風疹ウイルスに感

染すると難聴、心疾患、白内障、知能のおくれなどの障害を持った赤ちゃんの出生が心配されております。

次に、風疹予防の国の取り組みの経過について申し上げます。国では、昭和52年に中学生女子を対象に風疹予防接種が定期予防接種として開始されました。中学生への接種は、平成7年の法改正により男子にも拡大され、平成15年まで実施されております。その間、風疹流行の中心となっているのが小児であるため、流行そのものを抑制するという意見の高まりから、平成元年、幼児を対象として新三種混合予防接種を導入いたしました。この新三種混合ワクチンにつきましては、新三種混合とはMMR、いわゆる麻疹、はしかと風疹、三日はしか、そしておたふく風邪の三種であります。無菌性髄膜炎の副反応の発生が問題となり、4月に導入後、同年12月に麻疹単独ワクチンと新三種混合ワクチンのどちらかを選択しての接種となり、新三種混合は平成5年に中止となっております。以降風疹と麻疹それぞれ単独ワクチンの使用をしておりましたが、平成18年に混合ワクチンとなり、1歳児と年長児への2回接種となりました。その後、2回接種導入の1年後の平成19年には、高校生と大学生の間で麻疹が大流行し、休校が相次いだことから社会問題となり、5年間の経過措置として平成24年度まで中学1年生と高校3年生を対象に混合ワクチン接種を実施したところであります。風疹は、飛沫感染によって起こる比較的感染力の強いものであるため、免疫がないと多くの人がかかる病気となっております。風疹の感染予防にはワクチン接種が有効ですが、感染者はワクチン接種の機会がなかった方や1回接種の年代があることから、ことしの流行を受けて妊娠している方や家族への感染を防ぐことはもちろんのこと、今後妊娠を希望される方も含めた地域全体の流行を抑えるためにとの思いから、遊佐町としては今回の助成に至ったところであります。なお、今回の予防接種は、予防接種法に基づかない任意の予防接種となっております。

風疹の概要については申し上げましたが、最初の質問についてお答えいたします。まず、周知の問題でありました。今回の対象者への周知については、7月広報への折り込みによるリーフレットの全戸配布に加えまして、広報紙への掲載も行っていきたくと考えています。さらには、母子健康手帳交付時や乳幼児健診時等で機会あるごとに周知とPRを実施してまいる予定であります。

また、受けやすい体制ということでは、現在定期の予防接種を委託している医療機関に対しまして、今回の助成事業についての周知と協力依頼を行い、スムーズに町民が予約をし、そして接種ができるよう配慮してまいりたいと考えております。接種は、原則かかりつけ医への受診となりますが、多くの医療機関が土曜日の診療や午後6時あるいは6時半までの受け付けを行っている現状で、仕事を終えてからの診療時間の設定となっており、働く年代の方でも予約により接種できるのではないかと考えております。実施期間についてのご質問もありました。今年度の実施状況により、全てをカバーできるとは考えにくく、来年度延長実施についても視野に入れていきたいと考えております。

次に、風疹の周知と予防接種の勧奨についてでありますけれども、現在行っております新生児訪問時の予防接種の周知を徹底していくことや、新たに母子健康手帳交付時の周知に加え、今後風疹ワクチン助成事業の周知を図る際のリーフレットの配布や広報掲載等、機会を捉えてより多くの町民の方に予防接種の必要性等をお知らせしてまいりたいと考えております。

最後に、県や国への費用負担の要請についての所見はどうかということでありました。まさに日本は諸外国に比較してワクチン行政は大変おくれてきたなという思いであります。予防接種により健康被害の訴訟に敗訴したことを契機に、平成6年度に定期予防接種が義務から努力義務となり、健康被害を減らすた

めに体調などよく把握している主治医のもとで個別接種へと予防接種法が大きく変わりました。予防接種は、重大な感染症の流行抑制に大きな力がありますが、健康被害は決してゼロにならない現状があります。しかし、社会問題となる疾病予防は必須であり、より多くの方々を疾病罹患による後遺症等から救うために予防できる手だてを勧めていくことは必要と考えております。県や国への費用負担の要請についてであります。今後情報収集を行いながら、他市町村、県などとの連携を図り、機会を捉えて要望できればと考えております。それについては、議会の皆様からも一緒に要望の取り組みにご協力をお願いしたいなと思っています。県によっては、既に助成制度半額という制度を整えた県もあるとは認識しております。

以上であります。

議長（三浦正良君） 13番、伊藤マツ子議員。

13番（伊藤マツ子君） 今2つのことについて答弁をいただきましたので、再質問を行いますので、よろしくをお願いします。

まず最初に、福祉行政についてでありますけれども、先ほどの町長答弁になかったのではないかなと思ったのは、こういった方法を町内でやっているあるいはやろうとしているところがありますかというふうなことをお聞きをしましたが、それは回答ありませんでしたので、再度把握してありましたらお聞きをしたいと思います。

それで、私がいろいろ調べたのは実は浦安ではなくて、山口県にある夢のみずうみ村なのです。ここが一番最初にこういうやり方を進めたようでありました。少しご紹介をしたいと思うのですが、まずデイサービスの一日の始まりは各自がその日にやりたいメニューカードを探して自分の名前が書かれたボードに張っていくと。選んだメニューを選択ボードに張りつけるのもリハビリの一環。自分の名前が高いところであれば手を伸ばす、低ければ背中を丸め、腰をかがめる必要がある。途中でもしカードを落としても自分で拾ってもらうのが基本だと。食事はバイキング方式で、自分で盛り、職員は手をかしません。これは、スタッフが少なく手が回らないからではなくて、どれもが生活する上で必要な動きであり、利用者さんができることは極力自分でやっていただく、それがみずうみ村の大原則だとしているようです。そして、この基本には、引き算の介護という考え方と足し算の介護のあり方という考え方の大きな2つの流れがあるようです。まず、引き算の介護は、利用者さんが一定の動作が自分でできそうか否か。職員の判断で何とか自分の力でできそうだと感じたときは手を差し出さず、そばで見守るだけ。できたら褒めてさしあげると。できそうか否かを見きわめ、見守る、それが引き算の介護だと。足し算の介護は、例えばお茶を注ぐ、この行為自体貴重なりハビリのチャンス、それをスタッフがお茶をどうぞというのではなくて、そういうやり方をするとそのリハビリのチャンスを奪ってしまうことになるので、お茶も利用者が自分で注ぐ。万が一こぼれそうになったときは、スタッフが必要な支援を行うことにより、お茶はこぼれることなく上手に手をかりながらできる。そのタイミングと素早さ、手際よさ、気配りこそが大切なのですよと言われます。どうしてもできない部分に限って素早く介助をする、それから先は自力でしてもらうと、こうしたできない部分の支援を足し算の介護として進めているようであります。できること、できないことで、できないことが自覚できれば工夫が生まれると。できそうなことはまず挑戦をしてみる。できなかつたら、どうすればできるのかを考え、何とかできそうな方法を考える発想が生まれる。このできる、できそう、できないの3つが曖昧だと、できることもやらないし、できそうなことも最初から引きぎみで、挑戦を避け、

できないことには手を出さないことになるので、この3つの判断がはっきりしていることが必要なのだそうです。本人ができるかどうかの見きわめは、職員が意識を持ってその人のそばにいれば自然と見えてくるものだと。体験から、意識が大事であり、重要と確信をしているといいます。このようなあり方の介護の仕方、これは一例で、こういったことが種々いろいろあるのでありますけれども、このような介護のあり方を介護や障害者サービスの場に生かすことができないのか町のサービス利用者会議などで提起をして話し合ってみてはとは思いますが、これについて所見を伺いたいと思います。先ほど町長の答弁の中で、それぞれの施設で対応をすべきものというように受けとめられるようなお話もありました。それはそのとおりだというふうにして私も認識をしております。事業所に行政が土足でもってずかずかとといいますか、介入するような、こうしなさい、ああしなさいではなくて、こういったやり方は現場ではできないのかどうか、できるとすれば何かできるということがあるのかどうか、その辺のことも含めてこのサービス会議で議論をしていただきたいなというふうにして思いますが、これが1点です。

それから、もう一つの質問は、山口県に開設をしてあるこの夢のみずうみ村の代表者の方は、平成18年の4月に介護保険改正がありまして、大規模通所施設はスケールメリットがあるので、1割収益をカットをするという通知が国から出されたようです、そこで黒字から赤字に転落をしてしまったということで、これは経営に大変なことになるというふうな思いで、この経営難から脱するためにいろんなことをしなければいけないということで最初に始めたのが、全国をくまなく夢のみずうみ村の状況について講演会をして歩いていると。それは今現在もやっているようでありますので、こういったような話の聞く機会が、私は事業所さんあるいは住民も含めて聞く機会があればよろしいのではないかなというふうにして思うのですけれども、この辺のことについて少し検討していただきたいなというふうにして思います。近隣の実介護施設では、関係者の人たちが夢のみずうみ村を見学してきたところもありました。そこで、こちらさんの事業所では、何か取り上げられるものがないのかどうかこれから検討していくというふうな動きも出始めているようであります。そういう動きもありますので、まずは話を聞いてみるあるいは場合によっては浦安などの状況を見学をしてみるといったことも大事ではないかなというふうにして思いますので、その辺のことを2点目お聞きをしたいなというふうにして思います。

それから、もう一つ、風疹についてであります、今いろいろ答弁いただきましたので、町が率先していわゆる風疹の予防接種を打つことができる20代から40代の方に対しては希望者に対して全面的な支援をするというふうなことを町長が打ち出されました。それは大変私はよかったなというふうにしては思います。それはぜひ進めていただきたいなというふうにして思いますが、先ほど申し上げましたようになかなかどの程度いわゆる接種率が進んでいくのかというふうなことについては多少疑問も感じるところがあります。先ほどの町長の答弁の中で、たしか中学生、高校生の学年に対してのいわゆる公費での、あれはたしか国の支援だったと思いますが、あの支援が数年間進められましたね。進められましたけれども、本当のところ余り、ほとんど接種をした人はいなかったのではないかなというふうにして私は想像しておりますので、やはり接種率をいかにして高めていくのかということが、これが大変大きな課題であろうなというふうにして思います。医療機関は、協力をしていただく医療機関、かかりつけ医などでは全部予防接種ができると、予約をもって予防接種ができますので、受けていただきたいというふうなお話もありました。だけれども、土日のいわゆる休みの日でも利用できるような形でもとっていただくかあるいは一定の

ところで時間設定をして、例えば保健所ができるのかどうか、そういったいわゆる公共施設での場所での対応も休日にできるような対策は講じられないのかどうなのか、その辺の検討もしていただきたいというふうにして思います。

そして、国や県の費用負担についてであります。これはワクチン行政は町長もおこなっているというふうなお話もありましたし、議会も含めてやっぱり要望に取り組んでいくべきではないかというふうなお話もありました。先ほど町長から説明がありました。予防接種法が平成6年の10月改正で、いわゆる義務から全部が努力義務に変えられてしまいました。私は、これを見つけたときには大変驚いたというか、予防接種については全て国民の努力義務で行いなさいというふうな内容でありますので、こんな無責任なことを国がやっているとは思ってもおりませんでした。実際にはそのようなやり方によって変わっていると。これは、こういうやり方は別な感染症も含めて、逆に感染症の流行が一層出てくる状況があり得ないのかなというふうな心配がされますので、こういったことも含めて私は国に国としてきちんとした義務接種をすべきだというふうなことをやっぱり要求していかなくてはならないのではないかなと思います。ワクチンは決してゼロリスクではないことは、これは確かでありますけれども、起こってはほしくない副反応もありますが、そのリスクと感染症による疾患を防ぐやり方をするのにどちらが利益があるかということをやったり考えていただきたいというふうにして思います。まずは未然に防ぐことが有効であるのであろうというふうにして思いますので、ぜひこちらのほうの要望も国に申し上げていただきたいというふうにして思います。

それから、県に対してでありますけれども、山形県が一向にこのことについての動きは私の知り得ている情報では見えないのです。感染症ですので、町民が町が一所懸命負担をして、町のお金で負担をして町民にどうかしてくださいよと言われ、でもそれは大変結構なのですが、これだけ活動が広域化している中で、これは町独自だけではなくて県全体で対応すべきものであろうなというふうにして思います。例えば保健所単位で何らかの対応をするだとか、先ほど保健所の話もしましたけれども、あるいは保健所単位をもって県が集中して支援をしますよと、だから各市町村自治体はやっぱりそういうことに努力をしていただきたいと、これは県が動くべきものだというふうにして私は思いますので、そういったことも含めてなぜ県が動いていただかないのかということをお願いしながら要望をしていただきたいというふうにして思います。これらの数点についてのご答弁をお願いいたします。

議 長（三浦正良君） 時田町長。

町 長（時田博機君） それでは、私からリハビリ等の訓練の町内の状況、各施設でどうなのかという質問がありました。確かに答えていなかったと思いますけれども、詳細については所管の課長をして答弁をさせたいと思います。

ただ、いわゆる行っている機能回復のためのリハビリ等について、やっぱり日常生活の可能性を見つけて出すために、それは各施設はそれぞれの人材をしっかりと配置して、そして入所者のため、それからデイサービス通う皆さんのためにしっかりと頑張っているというふうな理解を私はしております。ただ、その有資格者が資格を取るまでの間にどのような学びをしてきたのか、そしてこれまでの経験等、これらをやったり今のリハビリ等に生かしていただいているという現状も非常に私はたたえなければならぬと、このように思っているところです。そして、これらがもっともっと新たなものとして議員ご紹介

等があれば、やっぱり行政としては研修等への支援は、それは要望等あれば可能であろうというような形でありますけれども、実施主体がそれぞれの施設という形、これ町営のリハビリセンターみたいなものを持っていて、そして理学療法士とかがしっかりと何人かいらっしやって、経験もあってできればそれは可能なかもしれませんですけども、今の我が町の現状をしっかりと見ますとやっぱりそれぞれの施設のそれぞれの経験値を持った唯の人材が配置されている人たちの努力をたたえながら、研修が必要になればそれについての支援をするという形のほうが、どちらかという施設に直接タッチしてこなかった町としてはそれらが最大限にやれる範囲内なのかなという思いはしています。詳細、現状の把握については、後ほど課長から答弁をいたさせたいと思っています。

また、風疹の予防接種については、我が町の財政の許す許容の範囲ということで全額の助成を私は決断をさせていただいたところでありました。県によっては、県が半額助成、たしか新潟県もそこまで踏み込んだという話もありますし、大きな都市でいけば名古屋がもう助成を行います。これ全額まではちょっと確認してこなかったですけども、そんな情報がありますし、関西のほうが非常に進んでいるというような印象を受けていました。東北では、お隣の宮城県はかなりの市町村で支援の制度が整えられてきたというように理解をしています。ただ、私自身はこの制度を導入するときに定住促進政策しましょうと、よそから来ていただく人たちにいろんなメリットを与えながらやりましょうと来ましたが、では今遊佐町に住んでいる方が安心して子供を産める、そして地域で暮らせるその一つとして、この制度は非常に若い人たちにしっかりと国の予防接種行政の空白を町が埋めるということ、本当は国が指示をして県からというこれまでの流れからいけば逆なのかもしれませんが、町民の不安解消を目指すという点においては一定の役目を果たせるというふうに思っております。山形県はなかなか、風疹は今はまだ県内では発症の例が少ないということかもしれませんが、それについてこれから逆に議題になっていくのではないかと、このような理解をしているところであります。まさに議員ご指摘の定期予防接種が義務から努力義務に変わったということで、数値や実数について行政では把握はほとんどできないというような現状であります。私の、いわゆるここにいる皆さんの子供の世代等が本当にしっかりと、では風疹の接種を受けてきたかというのは、それぞれの家庭でそれぞれ母子健康手帳で把握をするというような形にしかできないわけですから、それらをしっかりとまず今町に住んでいる方々から、1年ではそれは当然できないのかなと思っておりますし、それらを複数年の施策によって解消を図るということ。また、時間の延長等、土日の提案もありました。当然まず遊佐医会への相談から始めなければならないと思うのです。遊佐町だけでは予防接種、遊佐医会ではできないということも想定しますが、窓口としては遊佐の医会への相談から第一歩として始めていかなければならないと思っておりますし、これらをしっかりと窓口を通すことによって庄内地域の医療機関からのご理解もしっかり伺えるものだと、このように思っています。費用負担の要請については、県として、県議の先生方、県議と語る会等の場も我が町では準備しておりますので、それらについての提案等をいろんな機関の方からいただくということも一つのあり方なのかなとは思っておりますけれども、町村会とか庄内開発協議会等、これについてはどのような状況であるのか、遊佐町だけが先に進んでいて、いや、うちは大変だよねと言う確かに首長さんもいるかもしれませんが、まずはかかってからでは、罹患してから後でハンデができたということはないような手だてを町としてしっかりと準備をしたいと、このように思っています。ワクチンについては、今頼んでも全国的にはなかなか、

半年ぐらい先にならないと入ってこないのではないかという想定もあるわけですから、それについても当然今申し込んでも何カ月先という接種になる方もいらっしゃるかもしれませんので、それについてもしっかりと今からまず周知を、そして勧めることを町として行ってまいりたいと、このように思っています。

以上です。残余の答弁は課長をもっていただきます。

議長（三浦正良君） 本間健康福祉課長。

健康福祉課長（本間康弘君） お答えいたします。

夢のみずうみ村、これ前NHKの放送で放送になったようですが、若干資料を私見させていただきました。その中のデータということで、1つが要介護3の方の改善割合は全国平均では11.5%程度にすぎませんがということでございました。ただ、この夢のみずうみ村では、76.9%と脅威的な数字だということがありました。それで、特徴として、ここではバリアフリーではなく、不親切と思えるバリアフリーで、施設内のバリアを乗り越えることこそがリハビリにつながる訓練だという基本があるようでございます。そういったところで、本町におきましての介護のやり方、施設の内容でございますけれども、今言いましたこのバリアフリー、いわゆる不親切とも見えるようなリハビリのやり方はやっているかどうかということでございますけれども、現在確認はしておりません。ただ、介護、リハビリのデイサービスへおいでになる方につきましては、どこまでも日常生活を自分で送ってもらうというようなことがあるかと思えますし、原則自分でできることは自分でということで機能訓練、介護をやっているものと思っております。

それから、介護サービス会議という会議ありましたけれども、議員ご承知のように介護サービス計画を作成するにはまず介護認定が必要となります。要介護1から5と認定された方は、その次に各居宅支援事業者のケアマネジャーに依頼して介護サービスを作成することになると。これによって利用サービスが決められていきます。また、この計画を作成するには、このプランにかかわる単一の事業所だけでなく、同一利用者のかかわる多くの機関に所属する方と利用者、その家族も出席して決定していくことになる。このときの会議をいわゆるサービス担当者会議といっております。したがって、会議の性格上、利用者を取り巻く関係者との情報交換、情報共有を目的としていますので、今回のような事例を情報として示すことは、利用者にとっていろいろな選択ができ、サービスの幅が広がると思われれます。また、本町では、ケアマネジャーの研修会を隔月に行っております。この中で各利用者の事例やケース検討が行われており、今回のような事例はこの研修会で提供し、情報の共有を図っていく必要があるかなと思っております。要支援1、2の方々にとっては在宅での日常生活を送っていただきたいと思っておりますので、今回の事例もメニューの一つに加わればいいのではと思っております。

それから、山口県山口市でデイサービスセンターを初めて行った代表の藤原茂氏でございますけれども、先ほど現地見学あるいは講演等々のお話ございました。このケアマネジャー会議等々の席で講演なり見学なりということで情報を提供してはいきたいと思っておりますし、また日程等、費用等もありますので、今後実施するか、その講演についてお願いするかどうかも含めまして検討していきたいと思っております。

以上でございます。

議長（三浦正良君） 13番、伊藤マツ子議員。

13番（伊藤マツ子君） まず、お話を申し上げたことについて答弁いただきましたので、ぜひ対応をしていただければというふうにして思います。そして、一つでも事業所としてこういう方向性がいいので

はないかというふうなことがあれば、進められれば大変結構だなというふうにして思います。

そこで、もう少しご紹介をしたいのですが、そのメニューには、おもしろいなと思ったのですが、こういうものもあるようでした。人気の高いメニューというのも幾つかあるのですが、これは一番人気があるのはあんまや体ほぐし、あるいは料理教室だとか、パンづくりや温泉、プールなど、その他もろもろいろいろあるようですが、そのほかにうたた寝、ごろ寝、何もしない、ぼうっとするといった、そういうメニューもあるのだそうです。デイサービス利用者の中には、みんな同じようなことをして、俺はあんなことはちゃんとできるのだから、そんなものには参加したくないと、そういう声も聞かされて、デイサービスには行かないというふうな話もたまに聞こえておりますので、ごろ寝なんかさせてもらえるのなら大変結構かなというふうな感じもいたします。その日の体調もあるのでしょうから、なかなかおもしろいやり方だなというふうにして思いましたので、ちょっとご紹介をいたしました。

もう一つ、ワクチンなのですが、ワクチンはやはり防げる病気、防げる感染症をワクチンを接種をすることによってそれを防いでいく、私はこれが基本だろうなというふうにして思いますので、こういう方向性にやはり国は変わっていただきたいし、県も、今町長からいろいろ答弁ありましたので、質問はこれ以上は申し上げませんが、やはり県も素早い対応、対策をきちんとすべきだなというふうにして思います。自治体によっては、先ほど町長のほうから遊佐町だけが先に進んでいて大変だというふうなお話がありましたら首長の中にはあるかもしれないというふうな答弁もありました。そういうことも多分あり得るだろうなというふうにして私も思いますので、そこに国や県がきちんと支援をしていくということによって県内全域あるいは全国的に、東北一円あるいは全国に向かってそういう方向が示されれば、国が示すことが一番、私はここが一番大事なことだというふうにして思いましたので、質問をいたしました。

2分残っておりますけれども、3度目の質問はしませんので、これで私の質問を終了いたします。

議長（三浦正良君） これにて13番、伊藤マツ子議員の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前11時57分）

休

憩

議長（三浦正良君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

（午後1時）

議長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5番（赤塚英一君） 今回から始まります一問一答方式、一般質問では私が一番最初になりますので、何を参考にしていいやら非常に迷っておりますけれども、テンポよくいきたいなと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。稲川・吹浦まちづくりセンターの改築が現在進んでおり、プロポーザルによる設計業者も決定し、それぞれの地区でどのような施設にするのか、どのような設備が必要なのか、ワークショップ等による検討も大詰めの時期になっているのではないのでしょうか。特に吹浦のセンターは、防災の拠点施設としての機能も必要となり、いろいろな角度から地域の方々が議論

されております。耐震性や災害対策の面からだけでなく、老朽化による修繕コストから見ても、こうした公共施設の改築事業は今後も計画的に進めなければならないと思います。その計画を立てる際に考えなければならないことの一つに、その配置があると思います。なぜなら、その施設の利用状況や他の施設との関係性、さらに景観、利便性などから、単に建てかえすればいいというわけではないでしょうし、財政の面から見ても安易に決定していいものではないからです。今後も老朽化した施設の更新を考えていると思いますが、これからの公共施設についてどのように考えているのか。公共施設の配置についての考え、次に老朽施設の更新計画、そして更新に係る財政状況の3点について伺います。

一問一答でございますので、簡潔に終わらせていただきました。非常に不満な方もいらっしゃると思いますが、この後のやりとりで何とかしたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） それでは、私から赤塚英一議員に、一問一答方式という試行ではありますけれども、まず答弁をさせていただきます。

遊佐町では、これまでの一定の目的によりまして、町民の利用に供するため、多くの施設を整備、設置してきたところであります。具体的に言えば、役場庁舎とか道路とか橋梁、水道等の施設から、地域の活動の拠点である各地区の旧公民館、現在の各地区まちづくりセンター、さらに観光の拠点施設となるあぼん西浜、遊楽里等、そして学校、図書館、体育館などの教育関連施設などがあると考えられます。主要な施設の整備年度は、昭和33年の蕨岡まちづくりセンターや昭和36年の役場庁舎が一番古くなりますが、それぞれの整備する施設の機能を考慮しながら、利用の便も十分に検討し、これまで配置してきたと考えております。整備後、利用期間の経過による老朽化は避けられないわけでありまして、施設の改築等における重要な視点としては、1つ目として施設の安全利用の確保、耐震性を備えているかどうかというのが考えられると思います。2つ目としては、財政負担を軽減するため、長寿命化修繕計画を立てて将来の維持管理経費の抑制及び平準化を担保すること。これについては、町道にかかる橋梁について今長寿命化修繕計画を整えたところであります。3番目としては、建てかえ時期において、新築か改築かの判断として財政状況とのバランスをとりながら、先送りコストを解消することが考えられます。そして、4つ目として、急激な少子高齢化、人口減少を見据えていかなければならないということ。そして、よくスクラップ・アンド・ビルドとかなり以前言われてきましたけれども、この視点も大切だと思っておりますけれども、どうもビルド、ビルドが集中してスクラップがほとんど実現してこなかったということも反省かなと思います。

主な老朽施設について、更新計画と現段階での取り組み状況や考え方をこれから申し上げたいと思います。役場庁舎につきましては、昭和36年に整備し、その後必要に応じて大きな増築を2回ほど経てきました。本体の庁舎を保管し、新たな防災機能を備えるために隣接地に防災センターを平成20年度に整備いたしました。本体の庁舎の老朽化について現在具体的な改築等の計画はありませんが、かなり経過しているということもありますので、今後現状維持としていくかも含めて検討課題であるとの認識はしております。

続きまして、まちづくりセンターについて申し上げます。町では、平成24年3月に遊佐町まちづくりセンター改築基本計画を取りまとめ、まちづくりセンターの改築に向けた課題の把握作業を行っております。

町内6つのまちづくりセンターは、昭和33年から昭和47年にかけて建設されており、これまでも耐震補強工事や改修工事が行われてきましたが、いずれのまちづくりセンターも著しく老朽化が進んでおります。現在社会資本整備総合交付金事業に位置づけ、稲川並びに吹浦まちづくりセンターの改築事業に着手いたしました。両施設とも平成26年度内の完成を目指しております。以降平成28年度まで順次西遊佐まちづくりセンター、蕨岡まちづくりセンターの改築を1期事業として予定をしているところでございます。そのほか、改築基本計画では、現在使用している施設の長寿命化や機能刷新、用途変更なども検討されるべきとの指摘を受けております。今後地区ごとに基本的な改築方針を固めていくに当たっては、これらの視点を示しながら地区住民の意見、要望を取りまとめ、合意形成を図ってまいりたいと、このように考えております。町全体としての施設整備に関しては、総合発展計画に基づく年次計画にしっかり位置づけて施設の整備を計画的に進めることは当然であります。現在及び将来にわたって町民ニーズと行政需要並びに町民サービスを維持することが大切になってくると考えております。配備等総合的な視点はというような視点もございましたが、これまでの行政では地域のニーズに応じて整えるという姿勢はとってきたとは考えますけれども、総合的な配置についてはほとんどこれがなされてこなかったというふうに考えているところであります。どちらかという周辺、そして旧町村、合併のその地域に一定のものを周辺に置いてきたというような形が例えばさんゆうとか、それから語りべの館と考えます。それから、旧青山本邸の脇の研修施設等見たときに、周辺にバランスよく置いてきたということが主なものだったのかなと思っております。施設整備を進める計画の立案に関しては、まず観光振興、安全安心のインフラ整備、町づくりなどの各分野別に総合的な整備の計画を策定した上で、それぞれの施設の老朽度合いに即し、また用途、機能性、構造、規模と利用実態並びに将来の需要見通しに照らし合わせた施設整備のあり方を個別に検討してきているところでありますので、それらを発展させていきたいと思っております。その際、関係団体との調整を図ることが重要と考えますし、地域住民の意向をアンケート等で把握しながら、合意形成を図った上で構想段階から住民ニーズと満足度を把握し、またパブリックコメントを実施しながら広く町民意見を計画に反映するよう努めていきたいと考えております。今後も同様な形で行政運営に努めてまいりますが、目下の重要施策であります若者定住や今後ますます重要となる環境問題等に柔軟に対応しながら、優先事業を集中と選択により実施していくつもりであります。

施設の更新や整備に係る財政状況はという質問でございました。これまでの事業化に当たっては、現在進めている国の社会資本整備総合交付金事業で総合運動公園や子どもセンターやまちづくりセンターの整備を進めているように、より有利な補助金を活用し、補助対象事業関連施設の一体的整備を行っているところであります。老朽施設の更新につきましても多額の財源が必要になりますが、更新された施設は長期間にわたって町民生活の利便性を高める効果を発揮することになります。したがって、これらの施設更新に関する経費の財源としては、地方債を活用し、現世代とともに将来世代についても応分の負担をお願いするというのが合理的であると考えられております。ただ、一方で、地方債の増発は将来負担の増加を招く要因にもなりますので、償還計画とのバランスの見きわめ、これが大変重要であると考えております。本町では、さきに申し上げたとおり、老朽施設の更新については総合発展計画に基づく年次計画にしっかりと位置づけ、その財源についても将来を見通した財政計画に盛り込むことで計画的に実施してまいりたいと考えております。具体的には、町有施設で老朽化のため更新が必要となることが予想される各

施設のうち、各まちづくりセンター、学校、道路、橋梁、上下水道施設については、これまでと同様に補助金や過疎債などの交付税措置を伴う地方債など、有利な財政措置の積極的な活用を図ってまいります。一方、役場庁舎や消防庁舎、観光施設等の改築、小中学校の施設長寿命化のための修繕費等に係る財源につきましては、有利な財政措置が現時点では見込めないことから、地方債に加えて各施設整備のための基金の活用を検討しているところであります。

以上であります。

議 長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5 番（赤塚英一君） それでは、一つ一つ行っていききたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず初めに、公共施設の配置です。先ほど町長の答弁のほうでございました。今まで住民ニーズに沿った形で配置をしてきたというところ、これは一番やっぱり重要だと思うのです。住民ニーズのないところにやっぱりこういう公共施設というのは、これは無駄と言われても仕方ない。無駄以外の何物でもないような状況になるということも考えられます。これは本当に重要なのですけれども、それと同じようにただここに欲しいからこれを建ててくれというのではなくて、やはりほかの施設との一体性であったり、整合性であったり、利便性の向上というような部分も考えながら、若干ニーズとはずれるけれども、こっこのほうが将来的にいいよねという考え方もやっぱり必要なのかなという考え持っています。まちづくりセンターは、やはりその地域の方々が一番利用するわけで、例えば吹浦なんかですと防災の機能も必要だということで、3.11以降津波の話なんかもよくされました。旧吹浦小学校跡地高台のほうにしたらいいのではないかという話も当然ありましたけれども、やはり日々地域の方々が利用するセンターとしての位置づけ、場所的なものと考えればやはり今検討されているように現時点のところに改築する、建てかえるのが一番ベストなのかなということで多分地域の方々もそういう判断されたのだと私は思っています。そういうふうに配置のほうを考えていかなければならないと思うのですけれども。一番は、この庁舎を含めた、やはり老朽化かなりしてきている、でもなかなか有利な財源がなくて、補助事業がなくて大変だと言われるような、やっぱりこういう庁舎だっぴりの改築というのが一番配置的なものを考えたときには重要なかなというふうに思っています。遊佐町の庁舎をこの位置から例えば吹浦に持っていく、これははっきり言ってあり得ないような話になるのかなと思います。やはり遊佐の中心というのはこの地であって、ここに役場があることでいろんなことが今まで発展してきた部分いっぱいありますので、そういうところを考えていかなければならないと思うのですけれども。今やっぱりこの中で一番直近で建てかえなければならぬようなイメージがある建物とすればこの庁舎、もう一つが生涯学習センター、町民体育館、この辺が一番だと思うのです。この辺の配置について今後どのような形で進めていく、これは総合発展計画なり振興計画なりというのあるかと思うのですけれども、その辺除いたところで、これからそういうところに諮問していろいろ回答いただくのでしょうかけれども、町長のまず考えとしてどういうふうにされたらいいのかなという思いがあれば、まずそこをお聞きしたいと思います。

議 長（三浦正良君） 時田町長。

町 長（時田博機君） まず、地域のニーズに添えてという、配置してきたという反省が私はあると思っています。やっぱり補助金があるからとの理由で箱物をつくってきたという反省を、私自身も議会議員でしたので、今活用についてなかなか活用されていない施設も町の中にはかなりあるわけでありまして、そ

れについてやっぱりしっかりとした展望、計画、そして住民とのコンセンサスを得不いままに補助金があるのだからという形で進めてきたということは、大いに行政として反省をしなければならないと思います。ただ、役場庁舎に関しましては、私は就任以来まちづくりセンターをまず優先的に準備をしましょうと、そういう話をしてきました。それで、前期計画4つ、後期については2つという形で計画が整ったところでもあります。だけれども、地域によっては、いや、今西遊佐新しくつくるより学校の跡地どう活用するのかねという逆提案も町民の皆さんからいただいている部門もあります。それらをまず二一ズと、そしてある施設、小学校がかなり今の子供の数から見れば本当に過剰に整えられてきたということがありますので、それらの活用等もまず地域にお願いをしなければならない、これは苦渋の選択も町としてはあるかもしれない、そのようなことも想定をしています。ただ、庁舎については、現在のところ基金もまだ整えておりません。あえて申せば、財政調整基金は確かにふやしてきましたけれども、近い将来である消防遊佐分署、広域行政組合での建てかえについても、なかなか合併をしなかった酒田市とか庄内町は合併特例債でつくれるということありますけれども、我が町単独では合併していないわけですから、それらの制度は使えないと、有利な起債もなかなかないという中でいけば、少し起債等の積み立ても、またそれは庁舎等の将来的な改築についても視野に入れていかなければならないと。それ当然基金条例というのはつくらなければならぬわけで、議会の皆さんもご理解、ご賛同いただかなければつくれないわけですが、それらをしっかり準備していくことがまず第一歩なのかなと。あとは、庁舎についてはいろんな意見がそれはいっぱいあると思いますけれども、私はまだ私の個人の口からこのようにという形は申し上げる段階ではないであろうというのは認識をしています。庁舎を建てかえる、その前にまず遊佐で遊佐地区のまちづくりセンターのようなものがいいか、子どもセンターの合築をお願いしたけれども、いや、単独でいいのだから、合築はだめですよというお断りを受けた経過もございます。それらも総合的に考えなければならぬので、庁舎については一番最後にはなろうかと思えます。だけれども、将来的にやっぱりこの庁舎、3.11の東日本大震災、震度5弱ですか、遊佐町の辺は、それらは耐えたわけですがけれども、耐震診断をしてみると全くそれは耐えられない建物だと言いましたけれども、震度5弱を耐えた庁舎でございますので、それらを手当てをしながら、しっかりと議論をしてからどこにどのような形でという計画に盛り込んでいくという、やっぱり広く意見を求めてということから始めなければならないものかと考えております。

以上であります。

議長(三浦正良君) 5番、赤塚英一議員。

5番(赤塚英一君) いきなり財政の話もされましたので、これは後から聞こうかなと思っていましたので、これに関してはまた後から少しさせてもらいますので、一旦ここでは保留させていただきたいなと思っております。

配置のほうです。今町長のお答えの中では、今は自分の口からはどうしたい、こうしたいというのはなかなか言えないよと。それは、時期的なものもあるでしょうし、いろんなこともあるので、それは当然理解できるものだと思っています。ただ、私考えるに、遊佐の駅舎建てる時にこれ言いまして、別に反対していたわけではないのですけれども、いつの間にか改築反対みたいな話しされて非常に困った経緯もあるのですけれども、2つ、3つ当然建てなければならぬ状況これから迎えるでしょう。であれば、一緒にして1つのものをつくったほうが安上がりだし、いいものができるのではないかなという考えがありま

す。

そこで、1つ、これは配置の部分での提案なのですけれども、例えばこの庁舎建てかえるとき、老朽化の部分でまた話もする予定しますけれども、生涯学習センター、46年での建てたやつでございませぬ。これだつて確かに3.11で震度5弱は耐えたわけですから、これだつていつまでもというわけにはいかないと思います。例えばこれを合わせて1つの建物にする。今現在でも3階建ての建物建てているわけですから、例えば1階、2階、2階の半分ぐらいかな、例えば町民スペース、いろんな形で生涯学習センターであつたり、町民が集う場所、いろんな活動する場所として例えば使う。その上を例えば庁舎にする。これ4階建てとすれば、1階、2階を町民のスペース、生涯学習センターを含めた町民のスペース、3階、4階を例えば役場のスペースと。そうすればワンストップでいろんなことができるのではないかなと思つています。配置の部分ですけれども、例えば町民体育館、これ建てかえるのであれば、例えば遊佐中学校の脇、今サン・スポがあるわけですから、例えばそこと一体化して野球場であつたり、いろんな外のスポーツと中のインドアスポーツ、いわゆる体育館を使ったスポーツ、ここをもう体育スポーツエリアとしての例えば一体的な整備をします。こういう考え方すれば非常に効率よく管理、運営ができる部分も出てくるのかなと思つています。ここにせつかく防災センターがあります。先ほど分署の建てかえということもあります。これはもう直近、もう今、今の話になってくるので、なかなかちょっと不可能な部分もいっぱいあるのですけれども、例えばこの庁舎が生涯学習センターと一緒に今生活学習センターのあたりに移転したとする。ここがあくわけですよ。ここに分署が来れば、防災の拠点としてここは一体的に多分利用価値が出てくるのかなというふうな考え方も私持っています。例えば観光施設。観光施設であれば、重要な観光施設はやっぱり観光の中心は吹浦、海もあつて、山もあつて、そういうところがありますので、例えば吹浦のほうに持って行く。文化的な例えば民俗芸能みたいなところは、杉沢比山なんかもある杉沢を拠点にすると。各地区にいろんなのありますけれども、一つの拠点として、活動拠点としてそこに1つ置くと。そこをもとにしながら各地でいろんなものを作って行く。そういう形の考え方というのは一つあつていいのではないかなと私思っています。必ずしも今あるところに建てかえるのが全てベストだとは思いませんから、そういうところもしっかり視野に入れた形でやっていただければなと思つたのですけれども、そういうのは一つの提案ですけれども、これに対して何か考え、感想とかあれば一言いただければと思つていますが。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） 一問一答ですから、まず私が答えます。

確かに複合施設という形の位置づけでつくってきたいろんな施設があるのですけれども、実は非常に私は防災センターの反省を今しているのです。なかなか防災センター、だけれども実際は1階は使用目的は別の形で、そして防災センターの機能は2階にあると。2階にある施設、消防団でも災害のときに靴を脱がなければ上がっていけないというような施設がありました。ちょうど改修にも私は4年間で4回ちっちゃな改修を進めてきましたけれども、やっぱり外から防災センターのあそこの防災のところまで行けないという、階段が2階に1カ所しかないということは、私はできれば今年度中議会の皆さんのお許しがいただければあの2階に長靴履いて防災のところまで外から行けるようなものを整えなければ、もしも火事になったらあの階段どうするのだろうと非常に心配です。CO₂、二酸化炭素噴き出すから、電算室は安全

ですよと言ったけれども、電算室にCO₂充滿したら人間の命が危ないというところもありますので、複合施設の考え方について多少もっと議論が必要ではないかなと思っています。やっぱりこれから立案するに関しまして、それぞれの分野総合的な計画、それはこれから整えなければならない課題だと思っています。どうもこういう国の制度とか町の制度に乗っかってつくる、だけれどもそれが全く目的に沿ったものになかなかやれなかったと。当初から駅前の方のJAさんの健康管理センターの代替として使う目的があったものを防災センターという位置づけでつくってしまったたり、我が町ではいろんな計画ありました。総合福祉センターを整えるのだと、ゆうすいのエリアにという、そんなかつての計画もそれぞれの時代にあったような記憶もしますけれども、実際それらが町民の皆さんとしっかり、町民の皆さんの代表である議会議員の皆さんには説明したけれども、本当に町民の皆さんから理解を得られて整えてきたかという、その辺がちょっと荒っぽかったのかなと思っています。一番喜ばれる施設の、観光については集中と選択という形では鳥海温泉郷、あぼん、遊樂里、そしてとりみ亭、いろんな観光施設があの一帯に道の駅「ふらっと」も含めて、遊ぼつとも含めて集中して整えたということは、それはすばらしいことだと思っていますけれども、平時の業務を行うものについてのそのような視点は意外に少なかったという反省がございます。それらをしっかりと、反省はしただけではだめなので、それらを次に生かすということを考えていきたいなと思います。

残余の答弁は企画課長から答弁してもらいます。

議長（三浦正良君） 池田企画課長。

企画課長（池田与四也君） お答えさせていただきます。

2つの施設を1つにあるいは3つの施設を1つにという形の複合施設、あるいは合築施設について、一考に値するかなと思っています。ただいまの町長のお話のとおり、複合化へはこれから大いに町民議論が必要な課題かと思っています。そのように整理をさせていただきたいと思いますが、実例、事例といたしましては遊佐駅、駅と公共交通機関の発信所としての機能をあわせ持つ元町交流センターとの合築施設としていい実例があるとおり、ご質問の最後のほうでお話ありました拠点づくり、拠点という理念をここに掲げるべきかなと思っています。町全体で考えた場合あるいは地域で考えた場合、面で捉えたときのこの物理的な配置といいますか、単なる物ではなくて、そこにはすなわち地域活動の拠点をどう置くのかというところでの配置計画が必要なのかなというふうに、その理念が大切なのではないのかなというふうに考えます。

以上です。

議長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5番（赤塚英一君） 細かいところは、これからいろんな議論をされていかなければならないと思っています。ぜひその辺はいろんな角度から検討していただいて、将来にわたってあのおとき無理してでもいいものをつくったよねと言われるようなものをぜひつくっていただけるような状況、それは我々議会のほうでも、議員個々もそういう部分を一生懸命考えながらやっぱり取り組んでいかなければならないと思っていますので、その辺は、二人三脚とは言いませんけれども、一緒になって考えていければなと思っています。

あと、例えば町体の話ですけれども、割と町民体育館私もたまに、こういう体型なものですから、たま

に走りに行ったりなんかして汗流したりもするときがあるのですけれども、やっぱり中学生の部活動で使われていることが多々あるようです。確かに歩いてても自転車で来てもそこまでの話の距離なので、そんなという部分あるのでしょうかけれども、やはりその辺は今の利用状況から考えればサン・スポと一体的な中学校との併設によるような形が使いやすいのかなという考えもありますし、昨今部活動等の指導の部分での体罰とかあります。やはりそういう部分で考えても、一般の方々が出入りするようなところで部活なんかをやっているというような状況になれば、やはりいろんな目もあり、視線といいますか、ほかの目も入ってくるわけですから、そういう部分からでもいいのかなという思いがあったものですから、そういうふうと一緒にされたらどうですかという1つ提案させていただきました。これは、ぜひ企画課長、一考に値すると言っていたいただきましたので、ぜひそういうところも少しでも結構ですので、考えてみていただければなと思っております。

続いて、老朽施設の更新計画ですけれども、そちらのほうに行きたいと思えます。何で私この庁舎、こたわるわけではないのですけれども、この庁舎を一番に出すかという、古いのは確かにまちづくりセンター、各地区の、旧公民館として使われているところ、これは今先ほどの町長の答弁にもありましたとおり前期、後期に分けて計画的に今どんどん、どんどん改築進んでおります。ここに関しては、既にもう計画も上がって動いている話ですし、地域の方々もそれにあわせて一生懸命議論されて、いいものをつくっていただける状況ありますので、あえてその辺は触れなくていいのかなと思っていましたので、あえて触れていなかったのです。そうやって考えると、やはり触れなければならないのここなのかなと思っております。確かにさっきも話したとおり震度5弱は耐えたわけですけれども、震度5弱で終わるのかどうかというのは実際地震が来てみないとわかりませんし、震度5弱が次に来たとき壊れる可能性だってあるわけですので、なかなかやっぱり庁舎を建てかえとなりますとそんなぜいたくみたいな話になります。しかし、町の一番の指令塔という部分で考えれば、この庁舎というのは一番やっぱり最後の最後まで残ってもらうような状況ではなければならないのかなと思っております。建てかえの話すると、そんなものに金使うようだったらほかのことに金使う必要あるのではないかとよく言われますけれども、この庁舎内で日々働いている職員の方だけでも100人を超えているわけです。地震というのは、別に夜夜中に来るだとか土日に来るということでは限りません。誰もいないときに来ると限りません。日中の一番人のいる時期に来る可能性だってあります。3.11は、それこそこの議会、あの当時議会やっている最中来たわけですから。そうなったときに、いろんな形で被害が拡大する可能性もあります。例えばきょう朝、稲川と西遊佐の小学生の子供たち庁舎内ずっと見学して歩いていました。あの時間帯に震度6強とかの地震が例えば来たとする。うまいぐあいにタイミングよく逃げられればいいのですけれども、万が一一番奥にいて地震が来た、庁舎が崩れました、あの小さい子供たちの大事な命が奪われる可能性というのは当然あるわけです。そういうのを考えれば、この庁舎を建てかえるというのを後回し、順番としては最後になるのかもしれないけれども、計画としては後回しですること自体がそういう部分での町民の安全とか安心を守るという部分では非常に問題があるのかなと思ってます。きょうもお昼だって町民の方々、町民課の窓口のあたりいっぱいいらっしゃいましたよね。何人か来ていました。福祉課の窓口のほうにも来ていました。私の知り合いも来てまして、ちょっと立ち話なんかもさせてもらいましたけれども、そういうのを考えればやっぱりこういう古い建物というのはどんどん更新することを考えていかなければならないのかなと思っていま

す。もうこの庁舎は50年を超えていますので、一般的に耐用年数という部分からすればやっぱり鉄筋コンクリートの建物というのは50年と言われていています。例えば町民体育館。町民体育館は昭和46年ですね。46年、建てられたのが。46年度……

(「54年。50年代」の声あり)

5 番(赤塚英一君) 50年代ですか。ごめんなさい、昭和54年ですね。ごめんなさい。生涯学習センターでした。済みません。生涯学習センターでも46年に建てられた。もう40年以上たっているわけです。やっぱり人がたくさん来るところ。やっぱり安全性を考えればそういう建てかえも考えてなければならぬ。町民体育館は、今おっしゃったとおり54年。もう34年たっています。体育館とか、そういう教育施設というのは、耐用年数からするとたしか四十数年という形になっているかと思えます。もう10年程度でその辺の更新もするべき時期に入ると。であれば、今からこの老朽化施設を洗い出して、どのように更新していくか今から計画立てておかないと、さあ、やりますよってなかなかお金の面でも計画の面でもいろんな面で大変だと思います。この辺、その老朽化した建物というものを洗い出ししているのか。また、それに対して耐震化というのは今いろいろな形でやっているわけですが、各所管の課長で結構でございます、所管の課長のほうでその辺をどのように捉えているのか。古い順から、この庁舎、生涯学習センター、町民体育館。町民体育館には、隣にトレーニングセンターもあるわけです。あれも昭和50年代に建てられたはずですので、大体似たようなものなので、一緒に考えていただければなと思いますけれども。そのほかにも漁村センターも二十数年たっておりますし、菅里体育館もなかなか今使う率は少なくなっているとはいえ、結構スポーツなんかでも使っているようですし、いろいろな形で使っていますし、その辺もどのように各課のほうで捉えているのか。一言ずつ、簡単に結構でございます。事細かに言われても私も困る場合がありますので、簡単に結構でございますので、ぜひその辺の捉え方お答えいただければと思います。

議長(三浦正良君) 那須教育長。

教育長(那須栄一君) 最終的には、町長の答弁もありましたし、最後にまたまとめるのだと思いますけれども、町民体育館に関しましては耐震化を終えて数年、ましてや懸案でありました屋根は改修が終わってまだ2年しかたっておりませんので。ただ、やはり構造物として、学習センターがもう四十数年、町体も間もなく40年近くになるのだと思います。確かにまちづくりセンターであり消防署の分署であり、役場であり、めじろ押しですので、それでもやはり10年後、15年後を考えた場合はトレセンのあり方も含めてきょうご提案いただいたように当然財政的な裏づけとなかなかいかないわけですが、それはそれとして、やはり総合的なビジョンといいますか、拠点という考え方も大事にしてというご意見もありましたので、そういうことも考慮しながら、町民の、もちろん地域地域のニーズだけでなく町全体としてどこにあったほうが一番効率的で活用しやすい、全員が満足するとはいかないわけですが、そういうことを議論のまないたにのせる、そういうタイミングが来たのかなと思っております。具体的に、ではどうなのだとまだ持ち合わせていませんけれども、これから議会の皆さんのお考えもおかりしながら、財政的なことも勘案しながら議論していく緒につきべきタイミングだろうと。来年度まして町制60周年という大きな節目でありますので、いいスタートになり得るのかなと思って伺っておりました。

以上です。

議長(三浦正良君) 佐藤産業課長。

産業課長（佐藤源市君） お答えいたします。

漁村センターのお話がありました。漁村センターは、ご案内のとおり62年度、これ補助事業で建てたわけでございます。まだ二十数、まだと言えればあれですけども、鉄筋コンクリートでございますので、当然まだ耐用年数来ていませんので、建てかえそのものについては今のところまだ考えてございません。ただ、当然漁村の活性化、漁業者の技術研修等のために建てた施設でございますので、むしろ今は建てかえというよりはそちらのほうのように有効に活用していくかと、そして議員おっしゃったとおりゾーニングで言えば当然あそこは漁村の活性化をするための拠点となる施設であるというふうにも思いますので、むしろどのように活用するかということは今考えてございます。

以上です。

議長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5番（赤塚英一君） 今教育課と産業課の課長から、ごめんなさい、教育課は教育長からお話しいただきました。そのほかにもいろんな建物いっぱいあります。例えば町営住宅。町営住宅団地。あそこなんかでもやっぱりもう36年建ててからなるわけです。昭和50年代に建てているわけですから。ああいうところもやはりこれから計画的に検討していかないと、いざというときにはなかなか大変なのかなと思っておりますし、あと前回ですか、前々回からですか、話題になっておりました大平山荘もあります。あそこは特にやっぱり冬の時期使わない、非常にシビアコンディションといいますか、ハードコンディションといいますか、非常に老朽化といいますか、そういう部分では激しい場所に建てているものはしょうがない部分あるので、例えばそういうのだからこれから山岳観光を考えていったときにはやはりどういう形でしていくかということを考えなければならぬのかなと思っております。大平山荘も私が小学校入るか入らないかのころにたしか建ったような記憶もありますので、それから考えれば非常に老朽化も激しくなっておりますから、ほかの兼ね合い、例えば県が鳥海山を観光地としてどのように捉えているか、こういうところの視点も必要なのかなと思っておりますので、その辺はきょうはすぐ回答出るわけでもないでしょうし、じっくりと検討していただきながら、この老朽化の施設更新早目に考えて手を打っていけばいろんな形ができると思いますので、ぜひその辺は町長のもと一丸となって取り組んでいただければなと思っております。ここでは、老朽施設の件に関しては終わりたいと思います。

次に、財政状況です。建てかえるってなかなか10万、20万でできるようなものではございません。もう億単位の話多分なるかと思えます。私が高校卒業して就職したころのバブルの時期のように、お金が次から次から国のほうからいろんな補助事業やりませんかとか来るような時期ではもうございませんで、かつかつの中でやらなければならない。特に庁舎などというのは有利な補助事業なかなかありませんから、やっぱり自前で建てていかなければならない。そういうところから考えれば、やはり今からこの10年、20年先を見据えながら、建てかえを見据えた財政の計画というの必要なかなと思っております。町長就任以来非常に頑張っていただいて、財調が7億超えて、今はもう10億ですね。10億ぐらいになっているのかな。そのぐらいになっております。昨年12月ぐらいですか、国のほうでどたばたやっていて、交付税が来るか来ないかという話になったとき、あの当時の会計管理者が大丈夫だ、任せろと非常に力強いことを言っていましたので、遊佐町の場合は安心なのかなとは思っておりますけれども、そういうところは非常にいいのですけれども、やはり庁舎建てかえ、こういうインフラ整備、この辺に関しては私もけさほど総務

課長のほうからいろいろ教えていただいた基金の状況ありますけれども、それ見る限りでは観光施設に関してはいろんな積み立てありますけれども、それ以外というのはなかなかないのかなというのが感想です。この辺基金のほうをやっぱりつくるべきだと思うのですけれども、この辺検討いつぐらいから入っただけなのか。先ほど検討しなければならない事項と町長おっしゃっていましたので、この辺どういう指示いつごろ出される気持ちがあるのか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） お金がなければなかなか施設整備というのはやれないと。確かに一遍で何十億も借金してリープロミみたいな時代も何年前はあったわけですがけれども、やっぱり町全体として今やっと貯金と借金のバランスが全国の平均的な町、我が町の人口規模の町としてやっと平均値までこれでも戻ったというような形です。やっぱり今財政考えて義務教育整備基金と減債基金、そして観光施設整備基金については、ほとんど観光施設整備基金と義務教育についてはほぼ目標額ほど整っているという想定がございます。ただ、減債基金について、実は減債基金下水道の償還に回そうという形で繰り出して積み増ししてと。大体同じような状況です。財政で一番心配なのは、下水道の償還がここ5年ぐらいでピークを迎える、そのときに一般会計からどれだけ持ち出せるかというのが非常に、事業費が何せ160億ぐらいに当初からなったわけですから、それら加入の促進をしっかりと図りながら、そして加入をお願いしながらやってこなかったという経緯ありますので、一般会計はかなりよく戻したとは思っていますけれども、特別会計、特に……農集は終わりました。あとは、公共下水道特別会計が非常に大ピンチだと私は思っています。一般会計から毎年恐らく4億から4億5,000万円ぐらい繰り出しをしなければ公共下水道会計が持っていけないという現状を考えますときに、今のうちにできれば24年度の決算でかなりの剰余金が出たらその時点から消防庁舎と庁舎等の施設整備基金等基金条例を提出しなければならないのではないかというように思っています。なぜならば、今平成24年度、実は24年度、25年度はまだ過疎債の起債償還が25年度から始まる予定だと考えています。過疎債のダブればかなりの年数の起債を一緒に返還しなければならないということですが、24年度、25年度、26年度については1年分、2年分、3年分ぐらいしかまだダブって返さなくてもいいというような、財政的には何とかそこで起債の準備をできる年度ではないかという私の想定を今しているところで、財政当局にはこれまだ具体的な指示はしていませんけれども、その準備とか基金の設置の条例等の準備も必要なのかなと、このような話はしているところであります。

議長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5番（赤塚英一君） やはりそのほかの特別会計なり、いろんな遊佐町大分財政的なものが回復してきている、基金なんかも平均値に戻ってきているという部分ではあるけれども、まだまだ課題はいっぱいあるわけなので、一概に、ではためなさいねという話もできないのは私も重々承知の上でお話しさせてもらっていますけれども、そろそろやっぱりこの10年、15年のうちにいろんな形で建てかえ等をどんどん、どんどん迎えてくるような状況になってきておりますし、それが終わればないよではなくてまた次の新しい、その今現在新しいと言われている建物でもそういうふうにとどんどん出てくるわけですので、常にやっぱりその辺は見据えたところでの財政の基金の積み立てというものを考えていかなければならないのかなと思っています。例えば単純な話ですが、毎年5,000万10年間積みめば5億になるわけですし、非常に雑な計算ではありますが、そういうふうにしていけば負担の平準化、負担を先送りする部分も必要

だと思えます。これから生まれくる子供たちがやはり将来になって使うということもありますし、そういうことから考えれば起債での負担の平準必要ですけれども、現在我々がやっぱりその次の世代に残すべき責任としての負担も必要だと思えますので、そういう部分では基金として積み増しをしていって当たっていただければなと思っております。財政のほうは、総務課長非常に大変だと思えますけれども、しっかりとやっていただいて、その上には以前貯金が大好きな課長として名をはせた副町長もいらっしゃるわけですので、ぜひその辺はいい計画を立てながら財政の運営していただければと思うのですけれども、その辺副町長と総務課長のほうから一言ずつちょっとお伺いできればなと思えますので、よろしくお願いします。

議 長（三浦正良君） 本宮副町長。

副町長（本宮茂樹君） では、副町長と総務課長のほうから一言ずつということでありましたので。

これまでご案内のとおり、観光施設整備基金につきましても義務教育施設整備基金につきましても、いわゆる民間で言えば、企業会計で言えば施設を建てた場合に償却を積み立てしていきます。そういった考え方の中で、町で持っているいわゆるこれまで建ててきた資産の5%もしくは10%を目標にしてこれまで基金を整備してきたという状況でございます。これからは先ほど町長お話ありましたとおり、将来のサイクルを見据えた中でこれらの基金を整備をしていく考え方を持ちながらしっかりと整備していく財源を構築していきたいなと、いくべきであろうなというふうにご考えておるところでございます。

議 長（三浦正良君） 菅原総務課長。

総務課長（菅原 聡君） インフラ整備ということで各自治体が全国でインフラ整備をして、今の段階で日本全国の施設の8割から9割が各自治体が持っている公共施設だということがありますが、その維持管理が今各自治体のほうに重く財政負担という形でのしかかっておりまして、これは何も先ほど来からの議論が遊佐町だけの問題ではなくて、多くの自治体の抱える課題だというふうなことでございます。それをどういう形で乗り越えるかということで学者も含めてさまざまな検討をされておりまして、施設を広域化するあるいはご提言のありました多機能化をする、あるいは例えばアパートであれば民間を活用してその補助をしていくというような形で、さまざまな財政負担をより少なくして質の高いサービスを提供していくという課題をそれぞれの自治体が考えてきているという状況であります。そのときに、アメリカが1980年代にそういう状況になったときに税を多く負担をしてもらったということで乗り越えたということがありますが、日本の現状としては少子高齢化の時代でそういう状況ではないということでありまして、なお一層深刻な問題がここにあるわけでございますけれども、後のほうの世代にその負担がより重くならない形での平準化という問題と、それに対する準備ということで基金とか、そういうことをやっぱり考えていかなければならないということで、これは一所管の部分の課題ではなくて全庁的な協議の中で進めていかなければならない事項かなというふうにして思っております。

議 長（三浦正良君） 5番、赤塚英一議員。

5 番（赤塚英一君） ぜひ頑張ってくださいと思っております。

最後になりますけれども、前回の委員会のほうで、特別委員会でしたか、その前の委員会でしたか、も話は出ていました。岩手県紫波町の話です。民間が建てたその施設を活用するという。PPPでしたか。先日CSのニュースチャンネルでこれ特集していました。私建物だけが、私も実際見たわけではなかったので、ここで話聞いただけだったので、建物だけの話かなと思ったら、やはり集客をするためにはどうす

るか、そのためにまず初めにサッカー場をつくる、サッカー場をつくれれば練習とかでいっぱい来る、いっぱい人が来れば食事もあるだろうし、買い物もあるだろうというのがやっぱり発想にあったようなことを言っていました。私もちらっとしか見ていなかったのですが、あれですけれども、そういうところも考えながら、ぜひ老朽化の更新、安全面、安心面、利便性、また財政的な面からも多面的に検討していただいて、20年後、30年後にあのとき頑張ったから、いいものできたよねと言われるような状況をつくっていただければと思ひまして、私の一般質問を終わりたいと思ひます。

初めての一问一答ということで、どこまでが一问一答だったのか非常に疑問ではありますが、先ほど町長の話でありませぬけれども、反省をし、反省だけではなく次に生かせるようにしていければなと思っております。ありがとうございました。

議長（三浦正良君） これにて5番、赤塚英一議員の一般質問を終わります。

9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） それでは、赤塚議員に引き続きまして、一问一答2番目ということでさせていただきます。大変参考になりました。ありがとうございます。

それでは、鳥海山とわらび園についての質問をいたします。山形、秋田両県境にまたがる2,236メートルの鳥海山は、我が郷土遊佐町の誇り高い山であります。高さにおいては、福島県の尾瀬にある燧ヶ岳の2,346メートルよりやや劣るが、碧空にそびえ立つ雄々しい容姿といい、雲煙はるかに奥羽の一角を俯瞰する山頂からの眺望といい、東北一の名山として褒めるに値するものと思ひます。江戸時代の多くの本に日本第4の高山と書かれておりますが、それはいきなり日本海の海岸からそそり立っていて事実以上に非常に高く思われていたのでありませぬ。高さがこれくらいの山は多くあり、特に中部山岳地帯には3,000メートルくらいの山が連立していることもあり、実際は鳥海山よりも高い山は全国ではおよそ150ほどありました。そして、鳥海山は、山形、秋田の両県都からはるかに遠い県境にひっそりと立っております。そのためかあるいは県都に近い蔵王と南庄内にある出羽三山という価値高い山に隠れてか、これまで山岳観光客数で大きくおくれをとっております。しかし、昨年は蔵王、月山を抜いて県内一になったとのことは大変にうれしいこととございます。ついては、ふえた要因等、また人数などをお教えお願いいたします。鳥海登山マラソンやシー・トゥ・サミットなどのイベントも一役買っておることと思ひますし、新たに鳥海山婚活イベントなどを企画していただければありがたいものだと思っております。

さて、鳥海山観光の拠点である大平山荘の経営内容がよく指摘されております。前の議会でも大平山荘の休業の検討も話題となっておりますが、鉾立より下に位置することが不振であり、加えて鉾立稲倉山荘のリニューアルによって大平と鉾立の差はつきりしたのではないのでしょうか。稲倉岳は遊佐町なのに、稲倉山荘はにかほ市なのも何とも言えない気持ちでございます。

そこで、下にある大平山荘から笹ヶ岳付近にロープウェイを設置できたらどうかと思ひますが、町長の所見を伺います。蔵王には多くのロープウェイやリフト、月山にもリフトがかなり前から設置されており、大いに役立ってきたと思っております。

次に、鳥海山の公共サイン、案内板を町内、町外に見かけますが、町内には何カ所設置されておりますか、お尋ねをいたします。鳥海山は古いが、その名は新しく、室町時代の初めころで、その名が普及したのは江戸時代に入ってからのものであり、当初は大物忌山とかとりうみ山と呼ばれていたという説があり

ます。また、ほかに15件ほどの命名の由来がありますが、時間の都合上この2つだけで省かせていただきます。鳥海山を当時はチョウカイサンと呼んでいたようであります。しかし、昭和に入り、作家の森敦氏が随筆「鳥海山」を世に出版されました。それにはルビでチョウカイザンと入り、表舞台に出てきたことと思われまます。太陽の山であり、我々の山である鳥海山を誇りに思い、主張していくことは、遊佐町民と町を預かる者としての使命ではないのでしょうか。改めて町内に何力所あるのか伺います。私の見たところでは「サン」になっているようだが、詳細を伺います。

次に、月ノ原にある元牧場のわらび園について……

(何事か声あり)

9 番 (土門治明君) 委員会違いますので。管理運営と入園者数、団体数の状況はどうなっておりますか、伺います。ここをワラビ利用にしてから長年になるが、借地料、管理料は町持ちで、特定の団体に利用してもらってきた経過があります。現状のままでもいいのだろうか。利用料はどのぐらい入っているのだろうか。当初は果樹の植栽とか、予算をかけて取り組んでおりましたが、現状を見る限り問題が多いように思いました。これからの運営をお尋ねをいたしまして、壇上からの質問を終わります。

議 長 (三浦正良君) 時田町長。

町 長 (時田博機君) それでは、私から9番、土門治明議員にご質問の鳥海山について答弁をさせていただきます。

鳥海山は、本町の観光資源の中心であり、日本百名山の一つとして、花の山として多くの登山客においてをいただいております。以前には日本百名山の人気ランキングで全国7位になったこともあり、全国的な知名度を誇っていると考えております。東日本大震災により落ち込みましたが、徐々に登山客は回復しつつあるのが現状だと認識をしております。しかし、関西圏を中心とする西日本方面からの登山客については、特に団体客が震災以前に比較して回復していないのが実状であります。震災前の平成21年度は、月山のほうが上回っていた観光客数でしたが、震災後の回復状況は鳥海山が上回ってきたのではないかと考えております。

増加人数のお問い合わせでありました。一昨年度に比較して、昨年度は2万人程度増加しております。近年山頂だけでなく、鳥海湖周辺までのトレッキングを中心にリピーターの誘致に力を入れていることがこうした増加要因の一つになっているのではないかと考えております。また、大平山荘から鳥海湖か笹ヶ岳付近へのロープウェイ設置は、鳥海山の魅力を伝えるための手段の一つと考えておりますが、スキー場開発の事例でも大規模な開発は大きな議論が必要となることから、国定公園の関係者や地権者である鳥海山大物忌神社等関係者と十分な相談をしながら、将来的な可能性についてはどうなのかなという形です。ただ、この地域は風が非常に強い地域でありますので、果たしてロープウェイが適しているものなのかについては議論は必要だと思っておりますし、私はケーブルカー的なもの、地上を電気で引っ張ってもらう黒部のダムに行く途中のケーブルカー的なものの設置のほうが環境負荷等を考えた場合は、ちよどかぶせるというのですか、列車を、そのような形でいけば環境負荷は少ないのかなと思っておりますけれども、これら魅力を全国に発信し、そして見に来てもらえる鳥海湖を、そして大平山荘がまさにあそこに車を置いてあそこから発という形になれば、遊佐町の観光、大変だ、大変だと言われる大平山荘が一躍また脚光を浴びる地点に、そして地域に豊かさをもたらす観光拠点になるのではないかと考えております。

平成22年度に行った公共サインの現地調査報告書によりますと、鳥海山の道路標識への表記は、鳥海ブルーラインと国道7号との交差点付近を中心に9カ所確認をされております。いずれも「Mt. Chokaisan」と英字で表記されておりますので、設置者である国、県に表記意図について確認をしてみたいと考えております。国土地理院の表示では、チョウカイザンということを示していると伺っております。

2番目の質問であります。わらび園についての質問でありました。これについては、一般質問的なものではなくて具体的なことですので、本当は各課長に補正予算等の委員会等で質問いただければ大変ありがたいのかもしれませんが、一般質問でいただきましたので、基本的なことを私から答えさせていただきます。わらび園につきましては、昭和60年、杉沢字嶽ノ腰の国有林44.1876ヘクタールを管理牧野として国から借り受け、町が遊佐町牧野改良組合連合会に貸し付けて、月ノ原牧場として牛の放牧を行ってまいりましたが、その後酪農の不振等により放牧を取りやめたため、蕨岡採草部会が採草地として利用している土地以外の町が管理している土地19.5ヘクタールにつきましては、当地がワラビなど山菜の宝庫でありますことからわらび園として整備し、子供や障害者の方々が自然に親しむ場として、また小学校や福祉施設の野外活動に利用されてきております。管理につきましては、草刈り等の管理をシルバー人材センターに委託しており、今年度の利用状況は延べ16団体、522人になっているようであります。収入といたしましては、総合交流促進施設株式会社から使用料3万5,000円をいただいておりますが、一般開放している部分についての収入はございません。利用の許可基準につきましては、主に子供や障害を持った方々に自然に親しんでもらう体験農園と位置づけていることから、学校行事、福祉施設、各まちづくり協会が行う子供や老人のための事業としております。現在管理道路の周辺を中心にワラビを植栽、管理しておりますが、現在の管理体制では今の規模が適正であるのかと考えております。今後とも主に子供や障害を持った方々を対象とした体験農園として、自然と親しむ山菜園として活用してまいりたいと考えております。

以上であります。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） それでは、昨年度より山岳観光客数が2万人ふえたという答弁でございました。総数としては、100万人もいるのかなとは思いませんけれども、どのくらいになっているのかなと想像しております。富士山については、31万9,000人ほどが登っているという話でしたので、鳥海山は全部で10万人いくのかなとか、そういうことを私は答弁をお願いしたかったのですが、できればふえた分ではなくてどのくらいいるのかというのも次の質問でお聞きしたいと思います。

それから、このふえた要因については余り説明しておらなかったのですが、私はそこはやはり大平山荘についてはふえていない、そしてこの登山道もちょっと見てみますと吹浦口のほうから登る登山道、それから象瀧口コースから登る登山道と、こうあって鳥海湖まで行くわけなのですが、どうもこの2万人のふえた要因というのは象瀧口コースのほうか、建物かえたりさまざましたものですから、こっちのほうかふえたのかなと思いますので、とても遊佐町の努力でふえたような感じがしなかったわけなのです。その辺の分析も少し考えてもらって、そして大平山荘が鉾立山荘のブルーラインから行くと中間点に当たるわけなのですから、下にあるほうが有利になるという意味で、私はロープウェイと言ったのですが、町長はケーブルカー、ケーブルカーでもよろしいでしょう、そういうものはやはりこれからここに1本は絶

対つっていくと。これやらない限り大平山荘は休業の道を進んでいこうと私は思います。ですが、もちろんこれは遊佐町で自前でこれをやれと言っているわけではないのです。これは県を挙げて一所懸命頑張ってもらいたい。これは、地元である遊佐町から声を出していかなければならないことなので、まず議会のほうから声を私は出しました。

そして……一問一答だから、1回ずつされなければならないよね。済みません、ここでまず答弁をお願いします。

議 長（三浦正良君） 時田町長。

町 長（時田博機君） 今土門議員から、大平はもう閉鎖の道を歩むだけだという前回隣の斎藤弥志夫議員から質問あったことの繰り返しを聞いてふっと我に返りまして、やっぱりそれら新しいものがなければ幾ら高速道路ができてただ通り過ぎられるということでもありますので、遊佐町議会の皆さんからも鳥海山の見晴らしのいいところまで、そして鳥海湖等10分、15分で歩いて行けるようなところまでこのような施設の要望を大きな声を出して発信していただくということは大変ありがたいと思っております。なぜならば、もう10年先に高速道路できたときに何もなければ、新しいものがなければなかなか全国からは人は呼べないと思いますので、誰かがどこかでこれやっぱり声を出していかなければならないときに、地元の町議会の有力な議員であります土門さんから発言をしていただくということは大変ありがたいと思っております。そして、実は鳥海山観光といいますけれども、全て7合目以上は遊佐町のものなのです。鉾立から登ろうが途中で、あと県境、1,500メートルぐらいの県境を越えればみんな遊佐町に入って賽の河原に行くわけですので。あとは、御浜神社も遊佐町です。ということは……

（何事か声あり）

町 長（時田博機君） 所有は確かに神社庁ですけれども、遊佐町の地域に入ってくる。一番詳しいガイドが今そういう神社の持ち物なのですよと言っていましたけれども、全て7合目以上は遊佐町の土地でありますので、どこから登ろうが観光客は鳥海湖まで見に行けば、それよりも賽の河原の手前まで、賽の河原に行ってしまうばもう遊佐町においでいただくということになりますので、それから酒田から登っても家族旅行村登ってバスの……車の最終パーキング、駐車場は確かに1,200メートルのところで、あれは酒田市の八幡ですけれども、滝の小屋1,280メートルです、標高。30メートルぐらいちょっと手前、滝の小屋の30メートルぐらいの大きな岩のところを過ぎれば、あそこももう既に遊佐町に入ってしまう。そのような状況でありますので、鳥海山観光の一番の大切な町は我が遊佐町だと自負をしておりますので、それらについても、いや、八幡から登るから関係ないでなくて、秋田から登るから関係ないでなくて、私はやっぱり全て鳥海山に来る、特にかなりの高さまで、1,500メートルぐらいまで登っていただける方は全て遊佐町を体験していただく皆さんですから、それらについて歓迎を申し上げなければならないと思います。何人来たかという具体的な数字について私は把握しておりませんので、課長がわかれば答弁をさせます。

議 長（三浦正良君） 池田企画課長。

企画課長（池田与四也君） お答えをいたします。

鳥海山観光客の人数あるいは町内を訪れる観光客の人数については、一言で言えば非常にアバウトなのです。大体皆さんもご承知のことだと思いますが、大体数年の推移から、特に昨年度に対してどうであったかというようなことを、もちろん山小屋、山小屋での利用客数は押さえておりますが、大体昨年度に比

べてこのくらいは多いよねといったところの数字を先ほどの2万人程度というような形であらわしたものでありまして、なかなかこれ全国的な統一した人数を押さえる基準というものが無いものですから、観光施設あるいは山小屋の利用数、利用客数あるいは関係者の観光団体のそういった利用者のそれぞれの押さえを調査をして、そんな形で2万人増というふうにあらわしたところでございます。

ちなみに、もう一点だけ事例として紹介をさせていただきますが、その利用増につながった、客数増につながった理由の一つ、実数としてはそんなに多くはないのですが、海外からのインバウンド観光、特に韓国であります。4月に庄内総合支庁に年度当初の恒例の訪問を町長以下したところ、庄内総合支庁長さんが、いや、インバウンド観光は遊佐町ひとり勝ちだねというようなお話をしておりました。実際300人前後、年間通じて300人前後なのですが、確かにここ庄内では本当ひとり勝ちの状況にあるそうです。それは、エージェントとしっかりと韓国に赴いて遊佐町の、特に鳥海登山を中心とした売り込みを、まさに山を売りにして売り込みをして、地道なこれまでの成果が上がってきているのだと思います。今年度は、もう既に6月で400人ほど遊楽里に予約が入って随時観光客、韓国のお客さんを受け入れているという状況にありまして、こういったところの自助努力を、決して我々だけの力ではございませんが、こういった自助努力を施設と一緒にやっていきたいなと思っております。

以上です。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） 今の課長の答弁おかしいではないですか。山形県で1番になったと言っているのですよ。それがインバウンドで300人ふえたから1番になったのかというと、とてもそんなことはない。蔵王を抜いて、月山抜いて1番になったと言っているのですよ。言ったのですよ。これアバウトだと今言ったではないですか。あ、手挙がりましたので。

議長（三浦正良君） 池田企画課長。

企画課長（池田与四也君） お答えいたします。

実数の押さえ方としては、必ずしも具体的な積み上げをして出た数字ではないのだという意味で、アバウトという表現が果たして適当かどうかは皆様のご判断にお任せをしたいと思います。そういう捉えだということのを再確認をさせていただきたいと思っております。インバウンド、私最初に断りましたとおり実数としては本当少ないわけですが、一例として申し上げさせていただきました。もっと町のこの観光事業の取り組みに関してはいろんな事例が挙げられます。例えばおととしから始まったデマンドタクシー事業。

（「モンベル」の声あり）

企画課長（池田与四也君） ええ、モンベルとの連携でのシー・トゥー・サミット。特に大阪圏への観光客誘致の取り組みだとかです。町内に限って言えば、観光イベントもろもろあるわけですが、これまでばらばらに取り組んでいた実行委員会を1つにして、観光事業関係の関係者が一堂に会した形で観光戦略を練るだとか、それでまた私先ほど申し上げたとおり、決して自助努力でないとやったところは広域観光事業にも力を入れていただいております。山形、秋田県、それから酒田市、遊佐町、にかほ市、由利本荘市、鳥海山、大物忌神社さんも含めて、それらを構成団体とします鳥海国定公園観光開発協議会等と、そういった団体との連携推進に当たっているということで一例、二例、三例というような形で申し上げさせていただきました。いろんなこと、いろんな取り組みが複合的にこういう結果につながったのだというふ

うに考えます。誤解を生んでしまったことはおわびをさせていただきます。

以上です。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） いや、私の聞き方が悪かったのか。ただ、県内で1番になったと言うからには、やはり確たる根拠、数字というものを掲げて1番だと言わなければならないのではないのでしょうか。いや、アバウトで1番だ、インバウンドで300人でひとり勝ちだと、こういうもので県内で1番になったというふうに私は聞こえるのですけれども、やはりこれでは私も鳥海山1番だと胸を張って町民、またほかの人に鳥海山のすばらしさを伝えることはちょっとできない。やはり具体的にこれだけこうなったのだよというものを課長のほうからは示していただきたかったなと思います。これはちょっと無理そうなので、これはこれで終わりたいと思います。

それで、ロープウエーにつきましても、新しい高速道路が10年もかかって来れば新しい施設、そして魅力あるものをつくっていくという町長の前向きなお話でしたので、ぜひともこっちのほうも今は構想の段階からスタートして、高速道路ができるあたりまでには具体的なものにするように努力をしていただきたい。これは、ぜひともここは絶対必要だと思います。このままでは……先ほど町長は言いました。どこから登っても遊佐町なのだと、行けば鳥海湖もみんな遊佐町だと。しかし車を置くところ、スタートするところが問題ではないですか。頂上まで行ったら遊佐町だと。誰、遊佐町だと言うのは。鳥海湖で誰遊佐町だと言うの。スタートする車を置いて、そこの設備のところは遊佐町だと言ってもらわなければだめではないですか。そして、そこには多額のお金をかけてトイレ、設備、いろいろ遊佐町では負担をしてきたわけです。そういうもののサービスはしておりますけれども、この大平山荘がこの状態であるということが一番の問題ではないのでしょうか。町長手挙がりしましたので、お願いします。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） このケーブルカーの設置要望については、実はさきの選挙戦で私が一つの案として、だめだ、だめだと言ったってはだめだから、だめな場所をどのように活用して生かしていくかということの発言をさせてもらいました。土門議員よりも前に私のほうが発言をしています。それらについて、ただ発言をしてからどうやったら町民にしっかりと浸透していった結果ができるか、それから開発の問題について地権者等、環境団体等の理解を得られるか、これらが非常に大きな課題であります。町として今環境基本条例も計画も改定した町でありますので、民間の会社がやるようなものではないということ第2点。第3点目が、町が主体となつてつくと私は一回も言っておりませんでした。それについては、県等に、県当局等に求めていこうではないかという話し合いをさせておりました。そして、第4点目、スタートの地点はやっぱり大平山荘、山形県側にその拠点をつくったほうがどうでしょうかということ吹浦の地区の皆さんにも申し上げたところであります。私が申し上げたのです、はっきり言うと。だけれども、行政が主体的にやれるものではないというところの中で、どのような形にしても素通りされる、そしてお客が来ないエリアとして、そして観光というのはやっぱり新しい、すばらしいものがそこにできるからそこに人が訪れるという現状ありますし、そして関東の近郊には、長野には2,500メートルぐらいのところまで、国立公園であつてもそれはやっぱり人間がそんな何時間も登らないでも行けるような施設もしっかり整えられている。我が鳥海山見れば、確かに1,200メートル以上はかつて秋田県と開発をしないのだという

協定を結んだとは伺っております。だけれども、宮城県と山形県の地蔵岳、地蔵山の山頂、千五百六十何メートルですが、そこらについてはロープウエー２回乗り継いでスキー客があつという間に、かつては200万人ぐらい訪れたのでしょうか、蔵王というのは、そのような時代もあったわけで、何も求めないからには何も生まれない、そのような思いでこのような計画実現できればすごいよねと、だけれどもその前として、前段として地域の声を盛り上げて県当局等にやっぱり提案する、そういう作業も必要ではないですかということをお願いしたつもりであります。それらは、今高速道路の予算がしっかりとつきました。だけれども、眺めいいだけでは下からただ、パーキングエリアも提案しているわけですから、来てもらえる、だけれども登ってみようという、鳥海山の魅力を満喫しようと、だけれども年いってかなりきついねと、最近去年のあたりの鳥海登山、登山客の中老年というのですか、けがなせる高齢者がかなり多かったです。それら実は庄内総合支庁の会議で、県からつくってもらえるとけがした人を安全に運んでくれますからという話もさせていただいたのですけれども、まだそんなこと言わないでくださいよというような県の状況ではありました。あれだけ10日間で7日も救助隊が出動した昨年の夏山の状況でありましたので、もしもけがをすれば、それらを活用すれば安全に大平山荘までけがをした人も、そして天気が悪くてロープウエー乗れない人でもおりに連れてくることのできるのではないかと提案も内々的にはさせていただいているということですので、議会の皆さんからも大いなる一致した声でそれらの準備もさせていただければありがたいと私は考えております。

以上であります。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） 町長頑張っていると、最初からそう言えば私も大きい声を張り上げなくて済んだのですけれども、何かちょっとよくわからなかったものですから、今のように県のほうに声を大きくして頑張らせていただきたいと思います。

それでは、この件については終わりました、公共サインにつきまして質問します。鳥海山は9カ所あるというお話でしたが、チョウカイザンの一つもございません。チョウカイザンが9カ所ということでした。これは言葉のあやでございませぬけれども、やはり遊佐町としてはチョウカイザン、庄内もやはりチョウカイザンという「ザン」が当たり前ようになったのが先ほど私が申し上げたように昭和になってからだということが私勉強したらわかりました。そして、これを先ほど申し上げた森敦さんが、遊佐町民は何をやっているのだ、公共サインも地図もチョウカイザンだ、何で「ザン」を主張してこれを「ザン」に改めてもらうことができないのだと、やる気がないのか、こういうことを言っているわけ。遊佐町民としては、これは黙っていられないと思いました。ですから、やはり町内にあるその9カ所、できるだけ早くSをZにかえる、そういうことをお願いしていくということが必要ではないでしょうか。これは、遊佐町の誇りにかけてZにするべきですよ。どうですか。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） この表記については、残念ながら私が町長をする以前に整えられていたという事実です。私が町長就任してから整えたという施設は一個もないはずですよ。それらがしっかりと、町に多分聞かなかったのでしょうか。その辺は、国なり県なりにはよくあることだと思いますけれども。私は、秋田県のかほ市のグルッと一周鳥海マウンテンバイクの開会式にも昨年お邪魔してきました。7合目以上

は全部うちの町のものですからと、鳥海山、全国からおいでの方にもコマーシャルさせていただきまし、秋田県ではチョウカイサンと呼ぶらしいのですけれども、国土地理院ではチョウカイザンと申していますと、はっきりこれも申し上げてきました。それらについては、意図等はこれから先ほど答弁申し上げたように国と県に伺っていかうとは思っていますけれども、私になつてからしつらえたものについてはそれはまだありませんので、ご了解をお願いしたいと思っています。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） 町長も同じ思いであるということが今答弁いただきました。また、県のほうにも申し上げてきたと。ちょっと声小さかったけれども、これからもっとその「ザン」にはこだわって、県のほうには早くあの表記というものは直していただきたい、直すべきだと。これは当然なのです。大体山でサン、ザンの「ザン」ついている山、鳥海山ばかりではないのです。秋田は寒風山、そして京都の比叡山、それから新潟の妙高山、もう十何ほあるからこの辺で省きますけれども、その表記というのを見ましたらZですよ。遊佐の鳥海山だけですよ。それは、地元が声を出さなかったから……

（「当時の町長だ」の声あり）

9番（土門治明君） そうです。当時は当時。これからやりましょうということです。ですから、これはやはり遊佐町民が人がよかったのか、どっちでもよかったのか、それはわかりませんが、過去のことは過去で、これからできるだけその表記というものは直していただくように町長からは頑張っていたきたい。県知事としょっちゅう会っている町長ですので、まず県知事にも直接お願いすればすぐできることだと思いますので、よろしく願いをしたいと思ひます。この鳥海山については、「ザン」までやりましたので、鳥海山については終わります。

そして、わらび園については、先ほど町長からも予算委員会でやれやというようなお話でしたので、細かいことは言いませんけれども、この今入園させている団体は福祉施設、厚生会の施設の方、それから小学校の方の体験農園だということでワラビとりをさせているということでした。それから、あとは使用料としては「ふらっと」さんの関係かな、にワラビとりしてもらったのがこの3万5,000円、使用料ということになっているのかなと思ひます。つまりこれをこういう状態でずっと来たわけですよ。そして、以前に聞いた話によりますと、遊楽里で食事をした人、その方をバスで送ってワラビとりをさせて、そしてまた送ってくると、こういう企画をやったときがあったと聞いております。町長もこれはわからないと思ひます。私がひそかに聞いた話ですよ。つまり1,000円か2,000円ぐらいの食事をして、ワラビ20キロもよって帰ってくると。毎日来たという話でした、その当時はね。

（「今はないよ」の声あり）

9番（土門治明君） 今はない。過去の話ですよ。ですから、私は今の状態を見ると今この団体16団体の522人ではまだまだワラビは余っているという状態のようだと思ひております。産業課長、わかりますよね。まだまだワラビうだるほどありますよね。そうすると、やはり観光体験のほうで遊楽里に泊まった人にワラビ体験ツアーということで、そういうことを復活させたらどうでしょうか。食事は安いからだめですよ。ですから、こういう提案を、私が考えたわけではないのですけれども、そういうことをある方から、しているところもあるから遊佐町でもぜひやったらどうかと。そうしたらやはり、国に3年更新の借地料を払っているのしょう、町も。そして、管理料、ことし倍したのしょう。これだけかかっているの

すよ。それで、3年更新のこし2年目。来年でまた更新。使用料が3万5,000円。そしたら厚生会からも少しは負担してもらってもいいのではないかというお話もありましたけれども、厚生会も裕福な財政だと思っておりますけれども、このぐらひは厚生会との話し合ひは少しはするべきではないのかなと思っております。町長でなくて、産業課長。

議長(三浦正良君) 佐藤産業課長。

産業課長(佐藤源市君) お答えいたします。

先に遊楽里の話ですけれども、3万5,000円は現在は遊楽里が自分でとりに来て食事に出していると、そのためにとるといふものの、いわゆる貸し料としての3万5,000円いただいているということであつて、過去の話ちょっと私も今初めて聞いたのですけれども、そういうお客さんを連れてきたということは、今はそういうことやってございません。

それで、今そういうことをやっつてはどうかというご提案だと思ひましたけれども、さきに町長が答弁したとおり、この牧野は国有林を管理牧野として遊佐町が借り受けてございます。したがひまして、あくまでもこれ牧場用のといひますか、牧場として借りますという、そういう契約で3年間、さらにまた24年から3年間また借りるといふことになつたわけでございますが、いわゆるわらび園として入園料なりを取つたらどうかという議論は実は去年もありました。これ国のほうにも確認したのですけれども、そうしますと牧野としてではなくて、いわゆる体験農園といひますか、別の目的になるといふことで、これいかなものかといふことでそれを断念したような経過もござひます。過去にも何回かそういう体験農園しようと、いや、どうだといふことでいろいろ議論した経過があつたようですけれども、結果的にはそういう国有林野との折りが調整がつかなかつたといふことで、大々的な形でわらび園といふふうな体験農園と、いわゆる入園料をもらつてといふことはちょっとできないなといふことで考えてござひます。したがひまして、この月ノ原牧場のわらび園につきましては、いわゆる子供さんですとか、あるいは障害を持った方々、いわゆる施設の方々、そういった方々が入園、ワラビをとりながら自然に親しむといふ方向で持っていきたいと思つてござひます。確かにワラビの量はまだまだあるといへばあります。ただ、今の管理の状況から見ますと、ただいまの子供さんですとか施設の方々が来る、例えばいついつ来ますといふときに、いわゆる危険がないようにそういった、どちらかといふと我々健常者とは違ふ方々がとるわけですので、ちゃんととりやすいように管理員さんをお願いして管理してもらつています。それで、いわゆる無制限でどつと入れますと、そこせつかくそういうふうにしていたところがとられてしまつて、せつかくその施設の方が来たときになくなつてしまふということもござひまして、今のところそういうこと言ひますとその管理員さんが管理できる範囲といふのはこしの部分がぎりぎりかなと。実を言ひますと、こし522人ですが、昨年までは百何十人だつたのです。こしが急に、恐らくこういふいいところがあるといふことも宣伝していただいたことありまして、どつとふえました。施設のほうからも、ほとんどこの1週間、2週間ずつと続けてといふオファーもあつたのですが、それはさすがに週2回とか3回とかにしてくださいといふふうにお断りしたのですけれども、といふことで大変こしから人数がふえまして、今の管理体制でいきますとちょうど今ぐらひがぎりぎりかなといふことで思つてござひます。もしこれからまた変えるとすると、もっとそれこそ大々的にお金をつぎ込んでいふふうにならうかと思ひますので。ただ、そこも踏まえまして、また今年度来年度体制については再度検討してみたいと思つてござひますけれども、

今の体制でいきますとそういう子供たちあるいは施設の方々のための自然に親しむ山菜園ということからしますと現在の体制がちょうどぎりぎりぐらいかなというふうに思っています。今後とも一応その線で、もう一度検討はしますが、一応その線で、しかも団体につきましてもいわゆる学校、施設あるいはまちづくり協会、あるいは町がというふうな、そういったある特定の団体ではなくて、そういう子供たち、障害者持った方々のための事業への貸し出しにしたいというふうに考えてございます。

議長（三浦正良君） 9番、土門治明議員。

9番（土門治明君） 今までのように続けていくという話で、それから利用者も400人もふえたということで、すごく人気が出てきたのかなと思っております。それで、また来年度は今度1,000人も行くのかなと今度思っているのですが、ただ問題は同じ人何回も来ているのだね、ここ。522人のうち。ここが問題なのです。同じ人何回も。では、10日も来る。それは、522人のうち、やっぱりそうすれば120人ぐらいだよ。

それから最後に、果樹をたしか当初植えたはずなのですが、今は現状はどうなっているのか。それをお聞きして私の質問終わります。よろしくをお願いします。

議長（三浦正良君） 佐藤産業課長。

産業課長（佐藤源市君） お答えいたします。

同じ人が何回もというよりは、施設がたしか、今回16団体とは申しましたけれども、延べにしますと同じ施設が当然、例えばゆうとぴいが何回も来るとか、そういったことでございますので、同じ人がというよりは同じ団体が多分人はかわっているのかなというふうに私思っていますけれども、確かに何回も来て使っているということではございます。

あと、果樹のほうですけれども、確かに、10年ぐらい前だったと思いますが、プルーンですとか、たしかブルーベリーというのを植えたということでしたけれども、現在そちらのほうの管理は今行ってございませんで、木がなっているという、申しわけない、そういった状況で、果樹園としては使えないのかなというふうな状況でございます。

議長（三浦正良君） これにて9番、土門治明議員の一般質問を終わります。

3時15分まで休憩いたします。

（午後2時55分）

休

憩

議長（三浦正良君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

（午後3時15分）

議長（三浦正良君） 11番、堀満弥議員。

11番（堀 満弥君） きょう最後の質問者となりました。大分お疲れのようですが、暫時の間おつき合いのほどお願いいたします。

健康で長生きするための高齢者対策の推進を質問いたします。去る3月に、国立社会保障・人口問題研究所が公表した2040年の人口推計では、人口の減少はこれまで予想された以上に早く進むとされておしま

す。本町においても、8,396人、減少率45.8%になると推計されており、今後さらに少子高齢化が進み、部落の維持が困難になるとされる限界集落も数多く出現することが予測されます。こうした少子高齢化や人口の減少が全国的にさらに進むことが推計されているわけではありますが、そうした状況が目に見えていても対策はなかなか難しいのが現実ではないでしょうか。そうした中であって、これからはそこに住んでいる人々が生き生きと暮らせる、一人一人が輝いている町づくりを進めることが今後さらに重要になってくるものと思います。そのためには、健康は何よりも重要であり、何をするにしても基本であります。誰もが健康で長生きをすることを基本にした高齢者対策や健康推進策を充実していることが必要ではないでしょうか。現在高齢者対策ではさまざまな施策が講じられております。地域支え合い体制づくり事業を町単独事業として取り組んだことなどは、町民からも評価する声が聞こえております。しかし、このように評価が高く、効果がある施策だけであればよいのですが、施策ごとに効果があるかどうかを検証し、効果がない、普及が進んでいない、取り組みが不十分等と判断されれば、改善していく必要もあるのではないのでしょうか。また、現在の施策で果たして十分と言えるかどうか、新たな施策を取り入れる必要はないのかも検討していくことも必要と思います。特にこれからは高齢化が一段と進むことを踏まえ、より高齢者が集まりやすく、そして多くの人と交流ができ、町の資源の活用を図ること等により、事業費も安価に抑えられるような施策が求められるのではないのでしょうか。そのための施策として、一定年齢以上の高齢者を対象に、町の温泉入浴施設の活用による高齢者無料入浴日を設定してはどうでしょうか。温泉は、心身の健康づくりに与える効果が大きいと言われており、そして温泉施設を利用することにより外に出る機会もできることや多くの人と出会いもふえること等、健康推進の効果が大きいと期待される施策と思います。また、既存施設の利用拡大は、町の負担も少なく、入浴は無料でも何かしらを購入するなどのメリットも期待されるはずであり、健康と消費の拡大が図られることにつながります。ぜひ検討していただきたいと思います。

次に、健康診断時のがん検診の無料化を質問いたします。次に、健康対策であります。2012年厚生労働省が発表した平均寿命で全国最下位だった青森県では、その要因は健康診断の受診率の低さが要因ではないかと受診率の向上に向けた取り組みを行うことが報道されておりました。日ごろの健康づくりはもとより、今の体の状態を知る健康診断は、生活習慣病の予防とともに、病気の予防と早期発見のためには重要であります。そのためには、健診受診率の向上と精密検査対象者の受診率の向上が重要であります。中でも日本人の3大死因であるがん、心臓病、脳卒中の中で、死亡率が一番高いがんについては誰もが健診を受けやすい制度、無料化することにより受診者をふやしていくことが必要ではないかと思っております。がん検診の無料化を行っている市町村もあり、健診の費用は多くなりますが、早期発見につながることで結果的には医療費の削減になるものと思っております。そして、健康への意識が一層高まっていくものと思っております。ぜひがん検診の無料化をお願い申し上げ、壇上からの質問といたします。

議長（三浦正良君） 時田町長。

町長（時田博機君） それでは、11番、堀満弥議員に答弁をさせていただきます。

質問の要旨としては、健康で長生きするための高齢者対策の推進についてということでございます。我が町では、地区ごとに健康づくり大会なるものの毎年の開催や、そして自分の健康はみずからがつくるなどのテーマを掲げまして、まちづくり協議会中心にこのような活動していただきますこと、大変ありがた

く思っております。地域支え合い体制づくり事業もことしで3年目になるところであります。この事業は、当初県の補助事業として取り組んだものでありまして、平成23年度は33事業主体、平成24年度は14事業主体が実施をし、総事業費4,268万円で、総額3,012万円の補助金をいただいております。当初は全額県補助でございましたが、24年度は県の配分が少なかったため、町で946万円の持ち出しをしたところであります。ご承知のように、当町の高齢化率は23年4月現在で32%でしたが、ことし4月現在では33.6%となっており、超高齢化社会が到来しているという認識であります。この傾向はますます強まるものと予想されております。現在3人に1人の高齢者を住みなれた集落内で元気に過ごしてもらうためにいかに支えていくかは、集落内だけでなく町全体としての大きな課題でもあります。そのため、この事業は非常に重要なものと位置づけております。この事業が集落公民館の改修が目的であっても、1集落に限度額100万円の助成をすることで老人クラブが組織され、老人クラブみずから独自の事業を考え、行動している状況となっております。そして、我が遊佐町では、県内でも老人クラブの組織が、再結成というのでしょうか、もう一番進んでいる町だというふうに評価をいただいて、町の老人クラブ連合会の会長さんが全国で発表の機会を得るといような情報も寄せられております。また、さらに高齢者サロン等を実施している集落でも、集落内の老人の集える機会がふえて、相互扶助の気持ちでお互いの顔と顔が以前より大分近くなったとの話も伺っております。町としても、このような活動状況に着目しながら、少しでも高齢者が気軽に触れ合い、お互いに支え合うことができるよう今後も地域支え合い体制づくり事業を取り組み続けていくことが大事なことでないかと考えております。

続きまして、高齢者への温泉施設の無料活用についてのお尋ねでありました。町は、現在高齢者のお祝いの会としての敬老会などを実施していますが、その席上喜寿を迎える方には賀詞を、米寿を迎える方には賀詞と額をお祝いとしています。また、在宅の数え年100歳以上の高齢者には、敬老祝金を差し上げておるところであります。町として、その他に敬老のお祝いとしてよいお祝いがないものかと考えているところでありました。これまで満80歳以上の高齢者に対し、敬老年金を支給した経緯がありました。今回一つの方法として、例えば入浴サービス券をお祝い品としてすることも一つの考えかと考えております。いづれにしても、予算を伴うものでありますが、利用者数を検証し、高齢者の健康促進を図ることから、財政当局とも鋭意検討させてまいりたいと思っております。

第2問目の質問でありました。健康診断時のがん検診の無料化をというテーマでございました。初めに、本町における死亡状況について申し上げますと、平成23年度のデータでは死亡原因の第1位はがんであり、全体の28%を占めております。次いで、心疾患が17%、脳血管疾患が約16%となっており、死因の約6割を3大生活習慣病が占めている現状となっております。3大生活習慣病の人口10万人当たりの死亡率を全国、県と比較してみますといずれも上回っており、本町は3大生活習慣病が多いことがうかがえます。これらの生活習慣病の早期発見、早期治療のために現在本町が行っている健診事業は、胃がんを初めとした各種がん検診、メタボリックシンドロームに重点を置いた特定健診、また健診を通して若いころから健康への意識を高めていただくための20歳から39歳までの方を対象にした若年者健診、いわゆるわかば健診の実施をいたしております。がん検診につきましては、子宮頸がん、乳がん、大腸がん検診について国のがん検診推進事業を受けて、節目年齢の方を対象に無料クーポン券を発行しております。また、胃がん検診につきましては、特定健診等総合的な健診がスタートする40歳の方に町単独事業として無料クーポン券

を発行しております。さらに、歯周疾患検診、肝炎ウイルス検診、骨粗鬆症検診も実施しており、健康管理の一助としていただいております。現在歯周疾患検診を除き、いずれも一定の健診料金をご負担をお願いしているところであります。がん検診につきましては、検診委託料の3分の1程度のご負担となっております。ご質問のがん検診の無料化につきましては、県内では唯一庄内町で実施しております。庄内町では、平成17年度より国保加入者の健診料金の無料化を開始し、翌年度から肺がん検診、平成22年度からは全てのがん検診の料金を無料としております。庄内町では、全てのがん検診無料化の時期と同時に、庄内保健所の働く人のがん検診受診向上モデル事業を実施しており、無料化とともに健診周知のためのポスターやリーフレットづくりの機会を捉え、啓蒙、普及、早期で終了できるクイック検診、女性スタッフによるレディース検診など、さまざまな取り組みをした結果、検診受診率は向上しており、一定の効果を上げております。一方、本町のがん検診の受診率を見ますと、平成23年度で胃がん検診48.2%、大腸がん検診57.5%、子宮頸がん検診36.6%となり、庄内町の比較では子宮頸がん検診を除き本町が高いという状況となっております。ちなみに、庄内町の胃がん検診は、我が町が48.2%に比較して41.2%、そして大腸がん検診は我が町が57.5%の健診率に比べまして、大腸がん検診庄内町は50.6%。我が町が高いという。子宮頸がんだけは、我が町は36.6%で庄内町が40.9%でございますが、現在町ではがん検診の受診率を高めるための取り組みとして数々の施策を行っているところであります。ご紹介を申し上げます。全世帯への各種健診意向調査票を配付、回収し、未記入世帯への電話確認と健診受診勧奨を初めとして行っております。そして、受診者のご都合に合わせた小まめな日程調整が第2点目であります。また、申し込みをいただいた未受検者への再度の案内通知、申し込みがなかった方への再度の案内通知も発行しております。また、通知後の電話による受診確認と受診勧奨も行っております。また、特定健診申し込み者への大腸がんキットの送付、乳幼児健診の場を利用した子宮頸がん、乳がん検診の案内、保育園、幼稚園の入園児を通しての検診案内の周知、案内通知の工夫などなど、さまざまな取り組みをしているところであります。庄内保健所が立ち上げたがん検診向上研究会が実施したアンケートによりますと、3年間健診を受けなかった理由として、忙しく時間がなかったから、仕事を休むことができない、面倒だから、申込先がわからなかった、健康に自信がある、がんが見つかるのが怖いなどの理由が挙げられております。調査では、検診料金が低いという声も多少ありますけれども、検診料金だけが受けない理由とはなっていないという状況であります。検診の必要性など丁寧に伝えていく必要も大事なと考えているところであります。国民の2人に1人ががんに罹患し、また3人に1人ががんで亡くなると言われている時代であります。医療技術の向上等により、早期発見、早期治療により直すことのできるがんもふえてまいりました。健やかな生活をしていくために、今後の町の取り組みとしまして、喫煙や食生活などのがん予防につながる生活習慣の啓蒙、普及等1次予防はもちろんのこと、健診料金の一部ご負担もいただきながら、検診率を上げていくために従来の取り組みに加えて今年度は事業所訪問等新たな取り組みを始めたところであります。さらに、精密検査が必要な方の受診勧奨の徹底や検診の重要性を丁寧にしていきますとともに、時間がない方々のためへの手だてとして、酒田ドック健診の男性日の設定の継続や土日の検診日をふやしたりするなど、受けやすい体制整備を心がけてまいりたいと思っております。がん検診の無料化につきましては、諸般の都合もありませんけれども、財政的に果たしてどこまで町の財政がいろんなことに対応できるか等財政面との当局とも検討を申し上げながら今後検討してまいりたいと、このように思っております。

以上であります。

議長（三浦正良君） 11番、堀満弥議員。

11番（堀 満弥君） 再質問させていただきます。

ちなみに、にかほ市では福祉入浴日ということを決めて、毎月第2、第4木曜日に実施しているという話でした。そして、対象となる方は、にかほ市に在住する70歳以上の方で、利用される際には介護保険被保険者証等を提示すると無料で月に2回入れるのだという。これを見てみますと、温泉施設も9カ所あるわけですが、にかほ市には、仁賀保地域に4カ所、それから金浦地区に1カ所、そして象潟地区に4カ所、合計で9カ所あるわけですが、遊佐の場合は、鳥海温泉遊楽里と入浴できる施設はあぼん西浜と2カ所、民間の湯ノ田温泉酒田屋さんが1軒あって3カ所あるわけですが、この辺を利用していただければありがたいなと思っております。先ほど町長が高齢者お祝い、喜寿になりますと入浴券を配布するというふうなことも言っていました。やはりこれは吹浦の方からの要望でした。なぜ遊佐は高齢者になっても入浴券などを何で配布しないのだということを言われました。そしたら、「なじよだなや、町長」と言ったら、「いやいや、こんな一般質問でやってくれっちゃ」というふうなことを言われたので、きょう質問に立ったわけでありまして。何とかこの入浴券を月1回でも、にかほ市は2回ですが、1回でもいいと思えますし、またもう一回は無料ではなくても私はいいのではないかと。1回だけ無料にして、あと100円とか、今まで350円ですが、あれを半額にするとかという。方法は幾らでもあると思うのです。だから、そういうことをもう一回検討してもらえばありがたいなと、かように思います。

また、地域支え合い体制づくり事業で、ことしで3年目ということで、県の予算も3,000万以上使わせてもらって大分地域の方々が喜んでおります。また、老人会のつき合いも大分厚くなったというか、支え合って生きていくと。うちのほうの公民館も、これからですとことしはもう本当に暑くて、暑くてたまりません。エアコン2台をかけて酒飲みなどをすると、本当にいつ帰れるのかわからないくらいもうあんばいがいいのです。だから、これからも、一応当初の予算では300万の予算を見ているわけなのですが、申し込みかなりあると聞いております。何件ぐらいあるのか、その辺もお願いしたいと思えます。

そして、今まで県は最高の天井が100万、限度額が100万ということでしたが、町としては限度額をどのくらい見ておられるのかも伺いたします。県と同じくまた100万だったら何も言うことはないのですが、それが予算の関係上、財政の関係上どのくらい減らすのか、いや、同じなのをお伺いしたいと思います。

また、あるところでは、話聞くとところによりますと、ことしは準備ができなくて申請が出せない集落もあると伺っておりますので、この事業はもう何年ぐらい継続していくのかもお聞きしたいと思います。

また、がん検診のほうなのですが、平成17年の国勢調査による人口確定数というものがあるのですが、47都道府県の平均寿命ランキングを調べてみますと、山形県は男性が28番目で78.54歳で、全国平均より0.25歳下がっております。女性は、27番目で85.72歳、全国平均より0.03歳下がっています。男性の1番は長野県で、女性は沖縄県であり、女性は86.88歳。最下位は、男性、女性も青森県であり、原因は健診を余り受けていないのが原因であるようであります。ですから、健診を受けやすい制度として無料化を要望したわけです。先ほど町長もがん検診は受診率は遊佐のほうが高いと、庄内町より、という答弁でしたが、無料化するとますます受診率が高くなるのではないかと。財政とも相談して検討していくということでしたが、その辺をお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

議 長（三浦正良君） 時田町長。

町 長（時田博機君） それでは、答弁させていただきます。

高齢者への入浴サービスのどのような応援があるかということですが、本当に85を過ぎても毎日、あぼん西浜がファンでありまして、毎日おいでいただく方もいると伺っています。また、近くに温泉あるのだけれども、一回も町内の温泉には入ったことがないという方もいらっしゃると思います。その中で、行政としてどこまで公平性を保つかというところがやっぱり非常に重要なことではないかと思っておりますけれども、年配の方に入浴サービス券等の応援ができるような町であれば、高齢者にもしつかりその姿を次の若い世代がそういう町であるということを経験していただくという点、お年寄りを大切にするという点においては非常に教育的な見地からも必要なのかなと私も思っておりますので、これらについても何歳がその辺の始まりなのかも含めてちょっと検討をさせて、内部的に福祉サイドの形の出勤をお願いしたほうがいいのかと、今このように思っているところです。入浴券の割引料につきましては、一定の年齢以上はある程度入浴券という形のほうが、それは月何枚という形で可能なかどうかとも検討させていただきたいと思っております。年配の皆さんからも言われます。朝来て夜も来るのだという方もいらっしゃるのだそうですけれども、85歳を超えている方も毎日遊佐の十日町から通っている方もいます。そんな近くはないはずで、8キロぐらい車運転して通うのだというお話伺ったときもありますけれども、また野沢の方も毎日必ず1回はあぼんに入らないと気持ち悪くて寝れないというような方がいらっしゃるみたいです。だけれども、利用の頻度につきましては、やっぱりそれは少ない方もいらっしゃる、多い方もいらっしゃるわけですので、それらについて行政として必要な方にそれなりの年数、年齢を加えた方には例えばお誕生日の機会とか、いろんなやり方は内部的に検討できると思うので、それについて検討させていただきたいと、このように思っています。

地域支え体制づくりの事業の質問でありました。まさに2年度で4,268万円総事業費ありました中で、総額で3,012万円ですが、まさに大変な県からの補助金をいただいて進めました。3年目、当初予算で300万円の、せっかく昨年要綱を町でも整えてスタートした制度であります。それらが毎年毎年猫の目のように変わっていいものなのかどうかということも議会の皆さんからのチェックもそれは必要だと思っております。前回の質問で、4番、土門議員からはばらまきではないかという質問もありました。予算的に準備できるものと、それから議会の皆様のご了解を得なければ執行できませんので、それらがどのような形になっていくのか。ただ、現在10集落から申し込みがあり、総額で974万5,000円の申し込みと伺っております。当初予算、上限を100万円として維持しなければならないのか、昨年つくった制度ですから、それをまたことしは県からの補助金がないから、いや、何分の1にという形はなかなかつくれないという形も、踏み切れないということもありますし、やっぱりできれば同じ制度で何年間という形は続けるのが普通ではないかと。何で去年までこうだったのにことしからという形は、当然町民の皆さんからは逆に言うと周知が足らなかったのではないかとということ行政も問われるという思いもありますので、それらしっかりと上限の額の検討、そしてできれば緊急性が低い集落については次年度にお願いできれば大変ありがたいのでございますけれども、町単独の事業として振興計画には300万のご了解は得ているわけですが、それが何倍かするということは当然企画調整会議等の会議の手順、振興審議会の説明等の機会も必要だと思っておりますので、補正予算組む前にそれらの了解を得るという手順も必要になってくるであろうと思っております。

ます。

また、地域の皆さんから私自身には、いや、蕨岡でやっているご近所ネットというのですか、あれらの趣旨とは全く合致して、いい事業ですよという話は寄せられております。この間町政座談会の稲川の地区の座談会に行ったときも、ばらまきですよという話は聞こえませんでした。しっかり地域の高齢者のためにはいい制度ですよという声が寄せられておりました。これらの声にもしっかり配慮しながらこれについて進めていかなければと思っています。金額のどこまでがまだまだ検討の余地もあろうかと思えます。それから、要綱等の変更については、一遍昨年つくった分を町単独でまた来年変えて、その次また減額してという形が果たして行政として継続性としていいものかどうなのかもしっかり検討させていただいて決断をしなければならないと思っています。

あとは健診業務。庄内町が本当に一番今健診の無料化では先頭を走っています。日本一住みよい町づくりというテーマで、原田町長がしっかりと選挙戦の公約を具体的に福祉の充実という形で町民への健診の無料化を準備を整えて制度的に整えてきたということは大変評価をするものであります。ですけれども、ある保健師さん等の話聞きますと、完全無料化はちょっときついですよと、逆にみんな関心なくなってしまうのではないのと、ある程度の負担はしてもらってもいいのではないのという声も中にはあるみたいですし、また今お隣の酒田市と比べても決して、うちのほうが少しまだ高いのですが、それらについてはやっぱり町民負担、定住促進を図るというテーマから見てどのくらいの額がふさわしいのか等含めて、定住促進策の一環という視点からも考えていければいいのかなと思っています。

残余の答弁は健康福祉課長に答弁をいたさせますので、よろしくをお願いします。

議長（三浦正良君） 本間健康福祉課長。

健康福祉課長（本間康弘君） 私のほうから、健診のがんの無料化のほうのことで若干資料として提示させていただきます。

一応今回の質問の中に無料化ということがございました。24年度の料金、それから受診率等々から考えまして、一応どのくらいのお金がふえるのかという試算を一応やってみたとところでございます。金額が多いからといって決して無料化は難しいねということではございませんけれども、資料として見ていただければと思います。現在がん検診だけでは2,300万円ほどの支出でございます。これを全額無料化した場合については約4,400万円ほどの増額となり、町負担分としては6,700万円になるようでございます。また、健診全体の費用につきましては、現在6,300万円の委託料をしておりますけれども、これがプラス普通の特定健診、それから今のがん検診等と無料化後の支払総額では約1億700万円ぐらいになる見込みということでございます。したがって、この増額になった分について、後々健診率がふえて確かに医療費が激減になればよいのかなとは思いますが、なかなか庄内町等々の率から見ましても無料化になったからといって即それに反応するものではないのかなというふうに考えまして、できましたら先ほど1回目の答弁でお話ししましたように受けやすい体制をこれから十分整えていきたいなと思っております。

以上です。

議長（三浦正良君） 11番、堀満弥議員。

11番（堀 満弥君） 先ほどの答弁で、85歳で毎日風呂に行っているのだということでしたが、それは丈夫な方であって、なかなか風呂のほうも年いくと何か余り……余り年いくと80歳ぐらいになると風呂に

は行かないのではないかなと思います。ですから、にかほ市さんみたいに70歳ぐらいになったら無料券を差上げるといふうなことでもいいのではないかと、そう思います。何とかこれも検討するのだという町長の答弁でしたから、よろしくお願ひしたいと思います。

また、地域支え合い体制づくり事業ですが、10集落の申し込みがあるのだということで、金額は975万円、大体100万近くの要望があるようであります。やはりこれは私もばらまきではないと思います。そして、いただいた老友会に聞いてみますと、先ほども言いましたが、物すごくやはりいいのだと。そして、今申し込みなさる人たちもやはり「100万もらえんなば余りねえぞ」といふうなことを言っています。そして、老友会をつくって、そして申し込みをするといふうな手段になっておるわけです。これは老友会がなければ差上げられないので、やはりそういうことも補助金を上げますと。遊佐の電器屋さん、また家具屋さん、さまざまな店があるわけです。畳屋さんとか。畳のかけがえとかもあるわけで。サッシ屋さんとか。ですから、遊佐町にも活性化、3,000万、3,012万ですか、やはり潤いがあるわけです。やはりぜひこの老友会つくったところには天井の100万、限度額の100万を差上げるように努力していただければありがたいと思います。

それから、がん検診ですが、試算、無料化しますと4,400万がふえて6,700万ぐらいかかるのだということで、先ほどは町長は財政と相談しながら検討していくといふうなことでしたが、課長は無理なのではないかと、受診受けやすい体制づくりのほうへ何か流れていったような気がしますので、もう一回検討していただければありがたいと思います。

これで私の質問終わります。

議長（三浦正良君） これにて11番、堀満弥議員の一般質問を終わります。

本日の会議は全て終了いたしました。

6月18日午前10時まで散会いたします。

（午後3時57分）